

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第116集

深谷市内遺跡XVII (熊野163次)

---

---

2010.3

深谷市教育委員会

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第116集

深谷市内遺跡XVII (熊野 163 次)

---

---

2010.3

深谷市教育委員会

# 序

埼玉県北部に位置する深谷市は、古代には武蔵国に属し、榛澤郡・幡羅郡・男衾郡の3郡にまたがっていたと考えられています。

平成3年の発掘調査では、榛澤郡役所の一部と想定される倉庫群跡が、中宿遺跡から検出されました。県内初の発見例であることから、「中宿古代倉庫群跡」として県指定史跡となりました。

今回報告する熊野遺跡は、この中宿遺跡の南に隣接しています。これまでの170次におよぶ発掘調査の結果、7間×3間の掘立柱建物跡をはじめとする大規模建物群や竪穴住居跡などとともに、道路状遺構・連房式鍛冶工房・石組井戸など特殊な遺構も検出されました。さらに、役人が使用したと考えられる帯金具や円面硯なども数多く出土しており、熊野遺跡は役所的機能を有していたことが想定されています。

本報告書は、個人住宅建築に先立ち平成19年に実施した熊野遺跡163次調査の成果をまとめたものです。狭小な調査範囲でしたが、住居跡から帯金具や円面硯が検出され、遺跡の性格を考える上での貴重な資料を追加することができました。本書が学術・教育関係はもとより、文化財の保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成22年3月

深谷市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、埼玉県深谷市岡に所在する熊野遺跡の、平成19年に国庫補助事業として実施した第163次発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 文化財保護法第93条の1第2項に基づく事業者宛の指示通知は、次の通りである。  
平成19年5月7日付 教文第3-60号
3. 文化財保護法第99条第1項に基づく発掘調査の通知は、次の通りである。  
平成19年4月26日付 深教生発第119号
4. 発掘調査は、鳥羽政之・竹野谷俊夫が担当し、平成19年5月1日～平成19年5月29日にかけて実施した。
5. 出土品の整理及び実測・観察表の作成は、竹野谷俊夫が行なった。
6. 図版作成は、宮本直樹と竹野谷俊夫が行った。
7. 本書の執筆は、宮本直樹が行なった。
8. 本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1. 発掘調査位置図は岡部町全図（1 / 10,000）及び岡部町平面図（1 / 2,500）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1 / 25,000）を使用した。
2. 遺構実測図は、現場では基本的に1 / 20、カマド実測図を1 / 10とし、本書掲載の段階で1 / 60及び1 / 30とした。遺物については、基本的に1 / 3で掲載した。
3. 図中の方位は、座標北を示す。
4. 遺物観察表の数値に（ ）のあるものは推定値、《 》のあるものは残存値を示す。
5. 土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。
6. 遺構実測図中の英数字は、以下を表す。  
SJ 竪穴住居跡

# 目 次

序

例言・凡例

目次

I	発掘調査の経緯及び経過	1
1.	発掘調査の経緯	1
2.	発掘調査・整理報告の経過	1
3.	発掘調査・整理・報告書刊行の組織	2
II	遺跡の地理・歴史的環境	4
1.	地理的環境	4
2.	歴史的環境	4
III	発見された遺構と遺物	6
1.	熊野遺跡の概要	6
2.	発見された遺構と遺物	6
IV	発掘調査のまとめ	28

## 挿図目次

第1図	熊野遺跡の範囲と調査地点……………	3	第15図	2号住居跡出土遺物実測図(2)……………	18
第2図	熊野遺跡163次調査位置図……………	3	第16図	2号住居跡出土遺物実測図(3)……………	19
第3図	周辺の遺跡分布……………	5	第17図	2号住居跡出土遺物実測図(4)……………	20
第4図	熊野遺跡163次調査全測図……………	8	第18図	3号住居跡実測図……………	21
第5図	1号住居跡実測図……………	9	第19図	3号住居跡出土遺物実測図……………	21
第6図	1a号住居跡カマド実測図……………	10	第20図	4号住居跡実測図……………	22
第7図	1b号住居跡カマド実測図……………	10	第21図	4号住居跡出土遺物実測図(1)……………	22
第8図	1a号住居跡出土遺物実測図……………	11	第22図	4号住居跡出土遺物実測図(2)……………	23
第9図	1b号住居跡出土遺物実測図(1)……………	12	第23図	5号住居跡実測図……………	24
第10図	1b号住居跡出土遺物実測図(2)……………	13	第24図	5号住居跡出土遺物実測図(1)……………	25
第11図	1b号住居跡出土遺物実測図(3)……………	14	第25図	5号住居跡出土遺物実測図(2)……………	26
第12図	2号住居跡実測図……………	16	第26図	5号住居跡出土遺物実測図(3)……………	27
第13図	2号住居跡カマド実測図……………	17	第27図	熊野遺跡163次調査周辺遺構図(1)……………	29
第14図	2号住居跡出土遺物実測図(1)……………	17	第28図	熊野遺跡163次調査周辺遺構図(2)……………	30

## 写真図版

1	調査前、遺構確認状況、1号住居跡	5	2号住居跡出土遺物(1)
2	2号住居跡、3・4号住居跡、 5号住居跡、完掘状況	6	2号住居跡出土遺物(2)
3	1a・1b住居跡出土遺物		3号住居跡出土遺物
4	1b住居跡出土遺物		4号住居跡出土遺物
		7	4・5号住居跡出土遺物

# I 発掘調査の経緯及び経過

## 1. 発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡や、弥生土器で知られる上敷免遺跡、重要文化財に指定された緑釉手付瓶を出土した西浦北遺跡など、著名な遺跡が多い。

熊野遺跡は、深谷市の北西に位置する。JR高崎線岡部駅のすぐ北西にあたり、県道蛭川普濟寺線と国道17号線に挟まれた範囲である。近年までは駅から少し離れると家も少なく、畑が多く残っていた。しかしながら、『岡中央土地区画整理事業』が平成元年に立ち上がり、事業が進展するに伴い景観が激変しつつある。

この区画整理事業に先立つ発掘調査は、平成4年度から始まり、調査件数は急増した。それ以前の熊野遺跡における調査は、岡部西小学校及び岡部西幼稚園建設に伴い4次の調査が実施されていたにすぎなかったが、平成4年度以降は現在までに163次に及ぶ発掘調査が実施されている。

調査の結果、竪穴住居跡700軒、掘立柱建物跡150棟を始めとして、石組井戸・道路状遺構・土橋状遺構を伴う大溝・連房式鍛冶工房など特殊な遺構も多数検出された。遺物では、多量の土器類のほかに、帯金具・円面硯・唐三彩・和同開珎・刻字紡錘車など一般の集落では見られない出土品が目目される。

今回報告する発掘調査は、個人住宅建築に先立ち、平成19年度に実施したものである。

まず、平成19年3月20日に、高橋和博氏（以下、「事業主」と記す）から、埋蔵文化財の所在についての照会が深谷市教育委員会（以下「市教委」と記す）にあった。市教委では、埋蔵文化財包蔵地図により開発予定地が熊野遺跡の範囲内であることを確認し、遺構の存在の有無を確認するための試掘調査が必要である旨を書き添えて、3月26日に事業主に書面にて回答した。その後、4月2日に試掘調査依頼書が事業主から提出されたので、4月16日に試掘調査を実施した。調査は、敷地内において1本のトレンチを設定した。調査の結果、竪穴住居跡3軒を確認した。

これを踏まえ、市教委と事業主で協議を重ねた結果、工事の変更は不可能であり遺跡の破壊は免れないため、記録保存のための発掘調査を市教委が実施することで調整を進めた。事業主もこれを了承し、平成19年4月23日付けで文化財保護法93条の1第2項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が、市教委を経由して埼玉県教育委員会教育長宛に提出された。

これを受けた市教委では、文化財保護法99条の1に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を所定の手続きを経て、平成19年4月26日に埼玉県教育委員会教育長へ提出した。

埼玉県教育委員会教育長からの埋蔵文化財発掘届に対する事業主宛の指示通知は、平成19年5月7日付け教文第3-60号においてなされた。

実際の発掘調査は、平成19年5月1日に開始し、同年5月29日まで実施した。

## 2. 発掘調査・整理報告の経過

### (1) 発掘調査の地番及び遺跡番号

熊野遺跡の埼玉県遺跡登録番号は、No.63-017である。

調査地点の地番は、深谷市岡字中通273番地5、279番地1、6である。岡中央土地区画整理事業では、49-1街区4、5画地となる。

熊野遺跡では、先述のとおり過去に多数の調査が実施されてきた。深谷市が行なったものと(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施したものを合わせると、現在170地点に及ぶ。

今回報告分は、平成4年度以降実施した調査のうち163次調査と命名したものである。

### (2) 表土除去

発掘調査は、5月1日から着手した。作業は、まずバックホー0.25による表土除去から始めた。

表土から25～40cm掘り下げると黄褐色ローム層が表れたので、これを遺構確認面とした。

同日午後には、プレハブ・トイレの搬入が終了した。

### (3) 遺構確認・基準点測量

表土除去終了後、調査補助員による遺構確認作業を実施した。その結果、竪穴住居跡6軒を確認した。

### (4) 遺構掘り下げ及び図化作業

遺構の掘り下げは、調査区南西の1号住居跡から始めた。プラン確認により2軒の重複が想定されたので、断面観察のためのベルトを3本設定し、これを残しながら掘り下げを進めた。途中、2軒のプランと新旧関係が判明したので、1号住居跡をaとbに振り分けた。また、遺物は極力原位置を保つように注意を払った。

基準点測量は、まず仮杭を設定し、その後トランシットにより杭打ちを5月7日に実施した。その後、住居床面を検出した段階で、埋没状況を調べるための断面観察を実施し、1/20の縮尺で図化した。

その後ベルトをはずし、遺物の出土状況の写真撮影を行い、1/20の縮尺で図化した。

遺物を取り上げた後、床面の精査を行い、柱穴・壁溝などを検出し、掘り下げを実施した。さらに、カマドの調査が終了したところで、完掘状況の写真撮影を実施し、別の竪穴住居跡の掘り下げを開始した。

他の住居跡も同様に調査を進めた。全ての遺構の掘り下げが終了した時点で、調査区全体の写真撮影を実施し、その後に全測図を作成した。

調査の全工程が終了し、機材・プレハブ等の撤収が完了したのは、平成19年5月29日のことであった。

### (5) 整理・報告

発掘調査で検出された遺物の水洗・接合は、平成21年5月より開始した。これと並行して、図面の整理作業を行なった。遺物の実測は、平成21年7月から行い、併せて図版の作成を行なった。11月以降原稿を執筆し、大屋印刷株式会社に入稿したのは22年2月のことであった。

その後3回の校正を行い、報告書の印刷が完了したのは、平成22年3月26日のことである。

## 3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

### (1) 発掘調査（平成19年度）

教育長	猪野 幸男
教育次長	石田 文雄
次長	中村 信雄
課長	澤出 晃越
主幹	武井 茂
課長補佐	関根 代次
係長	古池 晋禄
主査	森下昌市郎
〃	鳥羽 政之
〃	高村 敏則
主任	知久 裕昭
主事補	幾島 審
臨時職員	竹野谷俊夫
〃	伊藤万里子
〃	黒澤 恵
〃	佐藤 由江
〃	布施みゆき

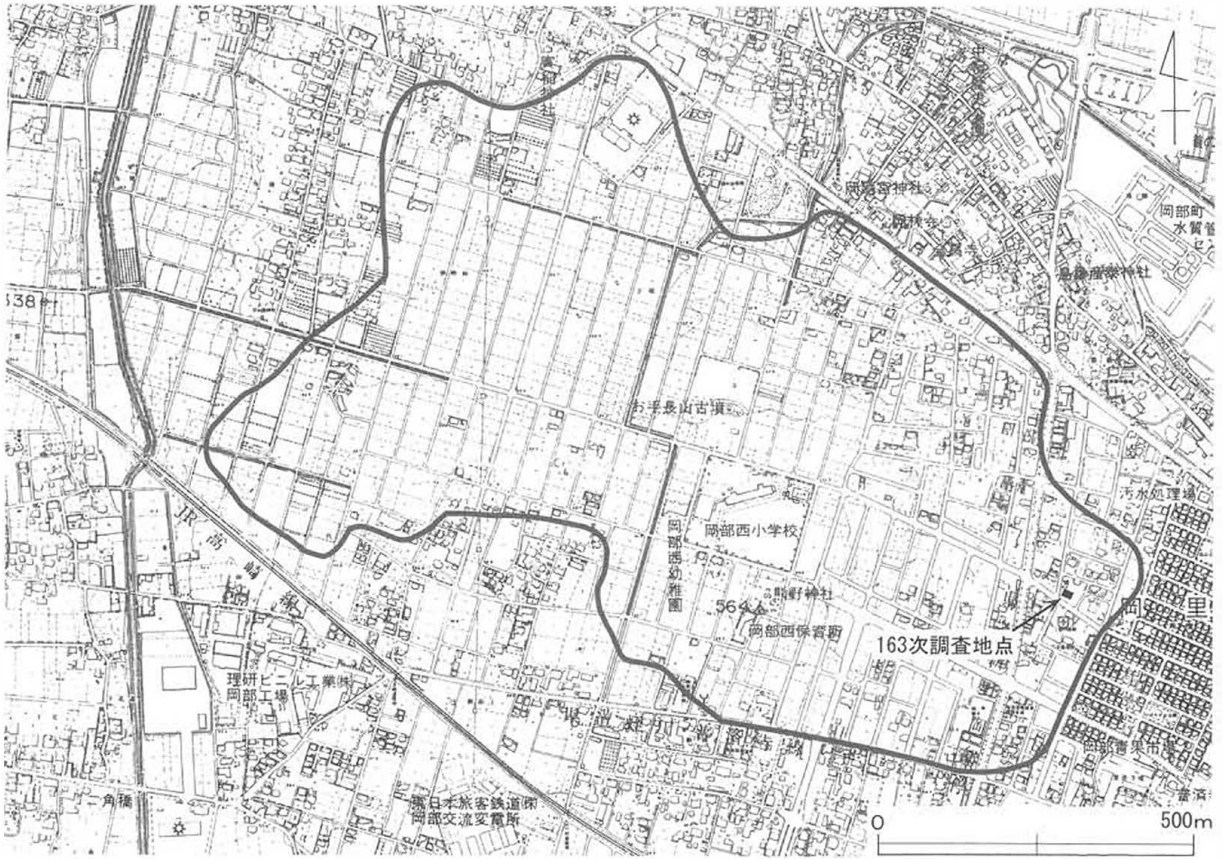
#### 発掘調査参加者

安斎 澄子	大野かね子	大野りつ子
兼原 恭子	田嶋 幹弘	

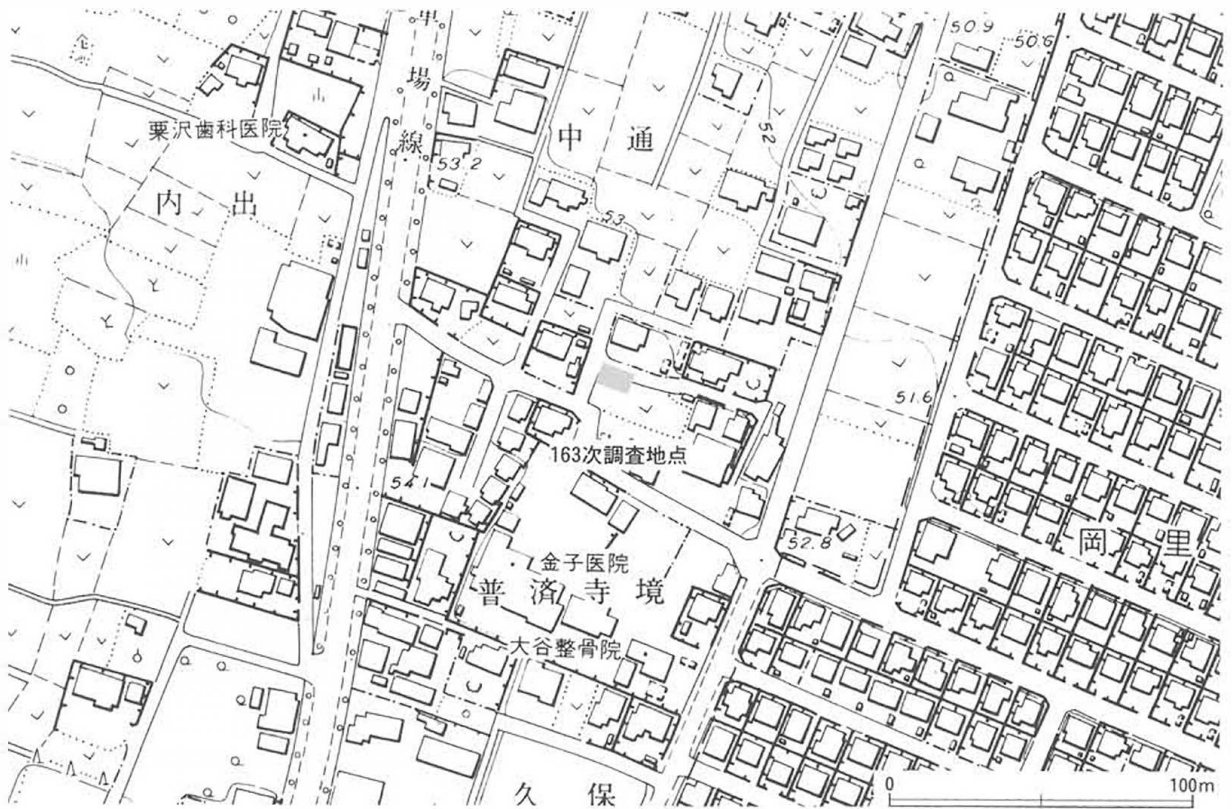
### (2) 整理・報告書刊行（平成21年度）

教育長	猪野 幸男
教育次長	石田 文雄
次長	島崎 保
課長	澤出 晃越
課長補佐	吉羽 厚仁
係長	村松 篤
主査	宮本 直樹
主任	荻野 直美
〃	知久 裕昭
主事	幾島 審
主事補	飯島 峻輔
臨時職員	竹野谷俊夫
〃	伊藤万里子
〃	北本ゆかり
〃	佐藤 由江
〃	布施みゆき





第1図 熊野遺跡の範囲と調査地点



第2図 熊野遺跡163次調査位置図

## II 遺跡の地理・歴史的環境

### 1. 地理的環境

深谷市は、埼玉県の北部に位置し、市内をJR高崎線、関越自動車道などが通る。

熊野遺跡は、深谷市岡字熊野他に所在する。JR高崎線岡部駅の北西に位置し、東西1,300m、南北1,000mの範囲に及ぶ。近年は市街化が進んでいる。

遺跡は、櫛引台地の北部に立地する。南部には標高116mの山崎山とこれに連なる諏訪山が存在する。遺跡の中心から600m北は崖線となり、比高差20mをもって妻沼低地へ移行する。また、櫛引台地の西は藤治川により区分され、本庄台地と接している。

### 2. 歴史的環境

熊野遺跡の立地する櫛引台地北部は、早くから開発が進み、これらに伴う発掘調査の結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷遺跡から押圧縄文・爪形文土器などが検出され、草創期の土器として注目されてきた。遺構では、四十坂遺跡で前期の竪穴住居跡が、水窪遺跡や菅原遺跡から中期の住居跡が、上宿遺跡で後期の敷石住居跡が検出されている。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晩期～弥生初期の土器群が出土し、弥生初期のまとまった資料として早くから注目されてきた。その後、平成2年の発掘調査では、再葬墓や土坑墓群が検出された。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五領～和泉期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連続と墳墓が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横剗板鋌留短甲・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から5世紀後半の当地域の首長墓と捉えられている。

その後、6世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稻荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）・内出八幡塚古墳（円墳）・愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動しながら単独で築造されたことが認められる。

この他に、熊野遺跡の東に接する白山古墳群では、6世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳1）が調査された。弾琴埴輪や壺を捧げ持つ巫女の埴輪など6体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土した。

なお、櫛引台地北部における古墳時代の集落は、現在のところ中宿遺跡や上宿遺跡など数か所が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、櫛引台地以外に分布の中心が認められる。

奈良～平安時代になると、様相は一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如集落が営まれる。これまでに163次に及ぶ調査が実施され、700軒を超える竪穴住居跡、150棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大溝・石組井戸・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。また、円面硯・帯金具・唐三彩の陶枕・緑釉段皿、刻字紡錘車・陶製仏殿・置きカマドなど他の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

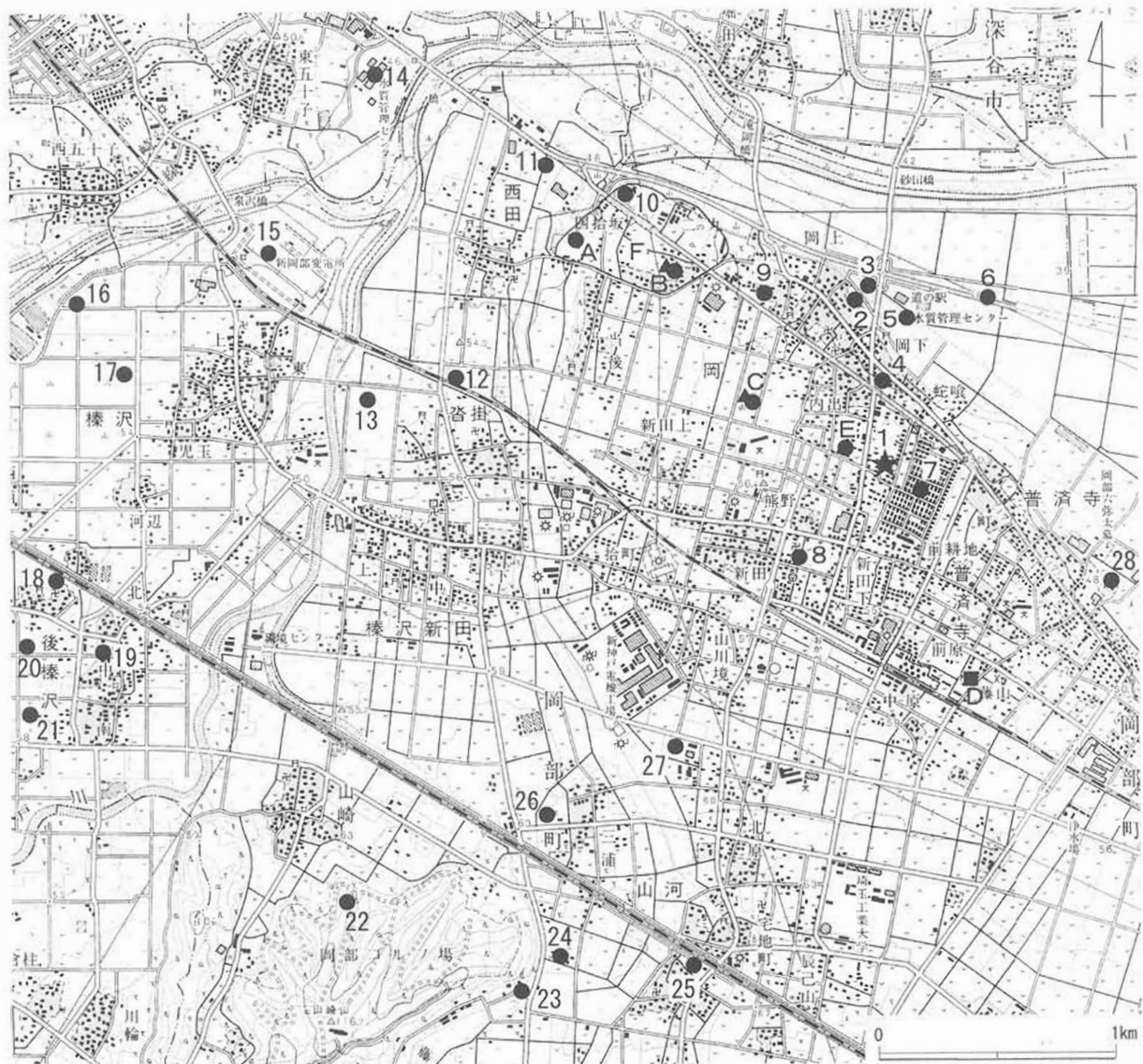
なお、集落の開始時期は、131次調査1・2号竪穴住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、7世紀第3四半期と考えられている。さらに、1次調査において検出された7間×3間をはじめとする大型建物の存在から、該期の熊野遺跡は初期評家と想定されている。

また、櫛引台地縁辺部に位置する中宿遺跡からは、大規模な総柱式建物跡20棟が規則的に配置された状態で検出された。榛沢郡家に伴う正倉跡と推定され、7世紀後半の成立であることから熊野遺跡との関連が想定される。これと前後して台地直下には「滝下大溝」が掘削された。その北側には条里遺構が検出されたことから、灌漑と運河の機能を併せ持っていたことが考えられる。

さらに、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡では、8世紀第2四半期と考えられる蓮華文軒丸瓦などが多量に出土する範囲があり、廃寺跡と推測されてきた。平成13年度に町教委が実施した確認調査により、版築された基壇状遺構が検出された。近接する住居跡から「榛」の刻字瓦や「寺」と墨書された土師器坏も出土し、寺院跡であることが立証された。

このように、奈良～平安時代の櫛引台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に集落や寺院が展開していた状況が窺われる。

古代から中世にかけては、まず岡部六弥太館跡があげられる。方形に廻る堀跡や井戸、土壇墓などが検出された。同様な堀跡は、熊野遺跡と白山遺跡からも検出され、館跡に付属するものと推定されている。西龍ヶ谷遺跡では、軸を揃えて並んだ6棟の掘立柱建物群が確認された。



- |             |                      |              |               |
|-------------|----------------------|--------------|---------------|
| 1. 熊野遺跡     | (律令期集落・官衙・中世居館)      | 18. 東光寺裏遺跡   | (縄文・平安集落)     |
| 2. 中宿遺跡     | (郡衙正倉・律令期集落)         | 19. 榛沢六郎成清館跡 | (中世)          |
| 3. 滝下遺跡     | (河川跡・律令期集落)          | 20. 石時遺跡     | (古墳～平安集落・周溝墓) |
| 4. 岡麿寺      | (寺院跡・古墳～律令期集落)       | 21. 地神祇遺跡    | (古墳～平安集落)     |
| 5. 岡部糸里遺跡   | (古墳集落・糸里水田・律令期居宅)    | 22. 千光寺遺跡    | (古墳群・平安集落)    |
| 6. 砂田前・樋詰遺跡 | (古墳～平安集落)            | 23. 西谷遺跡     | (縄文)          |
| 7. 白山遺跡     | (古墳群・律令期集落・中世居館)     | 24. 茶臼山遺跡    | (古墳群)         |
| 8. 新田遺跡     | (律令期集落)              | 25. 伝上杉館跡    | (中世)          |
| 9. 上宿遺跡     | (縄文・古墳～律令期集落)        | 26. 山河聖天社    | (中世)          |
| 10. 四十坂遺跡   | (縄文集落・弥生再葬墓・周溝墓・古墳群) | 27. 西龍ヶ谷遺跡   | (律令期集落・中世居館)  |
| 11. 原ヶ谷戸遺跡  | (縄文・古墳集落・古墳群)        | 28. 伝岡部六弥太館跡 | (中世)          |
| 12. 水窪遺跡    | (縄文・古墳集落・周溝墓・古墳群)    | A. 四十坂浅間山古墳  | (円墳)          |
| 13. 新井遺跡    | (律令期集落)              | B. 寅稻荷塚古墳    | (前方後円墳)       |
| 14. 東五十子遺跡  | (古墳・中世集落)            | C. お手長山古墳    | (帆立貝式古墳)      |
| 15. 六反田遺跡   | (古墳・中世集落)            | D. 前原愛宕山古墳   | (方墳)          |
| 16. 大寄遺跡    | (縄文・弥生～律令期集落)        | E. 内出八幡塚古墳   | (円墳)          |
| 17. 西浦北遺跡   | (縄文・古墳～律令期集落)        | F. 四十塚古墳群    | (古墳群)         |

第3図 周辺の遺跡分布

### Ⅲ 発見された遺構と遺物

#### 1. 熊野遺跡の概要

熊野遺跡は、櫛引台地北端部に展開する集落跡である。遺跡の標高は55m前後であり、南西から北東に向かって緩やかな傾斜を有している。遺跡から北東へ約600mで台地縁辺部に達し、眼下には利根川及び小山川により開析された妻沼低地が開けている。沖積地との比高差は、約20m程である。遺跡は、南北約1,000m、東西約1,300mを測り、当地域最大の規模を誇る。

熊野遺跡は、主として奈良・平安時代～中世にかけて営まれた複合遺跡である。それ以前の櫛引台地北部は、古墳群が造営される墓域であった。熊野遺跡内にも、終末期の帆立貝式古墳であるお手長山古墳と、これに続くと考えられる内出八幡塚古墳(円墳)が築造された。その後7世紀中葉から後半にかけて、遺跡が形成されたことが、これまでの発掘調査により明らかとなっている。

発掘調査は、まず岡部西小学校建設に先立ち、昭和52年～54年に実施されたのが始まりである。3次にわたる調査の結果、奈良～平安時代を中心とした竪穴住居跡83軒、掘立柱建物跡2棟が検出された。遺物では、円面硯や帯金具などの出土が目される。

また、平成4年度から始まった岡中央土地区画整理事業に伴う発掘調査は、現在までに163次にわたり実施されている。調査の結果、竪穴住居跡720軒、掘立柱建物跡160棟あまりが検出された。このほか、7間×3間の大型建物や、大規模な石組井戸跡、連房式鍛冶工房、大溝等が特筆される。出土遺物では、多量の土器類のほかに、帯金具・円面硯・唐三彩・和同開珎・刻字紡錘車なども特筆される。さらに、鎌・鋤先などの農耕具や刀子などの鉄製品も多いが、鉄鏃や小札などの武器・武具の出土も注目される。

更に、これらと並行して実施された(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団の4次の調査により、竪穴住居跡201軒、掘立柱建物跡110軒、道路状遺構、井戸跡4基などが検出されている。遺物では、陶棺や置きカマドなども出土している。

遺跡が形成されたのは、131次調査1号・2号住居跡から出土した畿内産土師器の年代観から、7世紀第3四半期と推定される。その後、10世紀代まで集落が営

まれていたことが判明している。

中世では、1辺が約95mの方形区画溝が検出されており、館跡の存在が想定される。また、現在までに2箇所の墓域が確認されており、多数の土壌墓から銭貨やカワラケが出土している。地下式坑も検出されており、深さ5mの規模を有するものもある。さらに、遺跡の中ほどに「岡の五輪塔」が建ち、市の指定文化財となっている。

#### 2. 発見された遺構と遺物

今回報告する発掘調査地点は、深谷市岡字中通273番地5、279番地1、6(岡中央土地区画整理事業49街区4、5画地)である。平成4年度以降に実施された熊野遺跡における発掘調査では、163次調査にあたる。

調査により検出された遺構は、奈良～平安時代の竪穴住居跡6軒である。1号住居跡については、2基のカマドの存在から2軒の重複と考えて掘り始めたが、当初はプランが判明できず、切り合い関係の判明した途中からaとbに分けた遺物等取り上げた。

以下、順を追って詳述する。

##### 1 a 号竪穴住居跡

調査区の中央に位置する。大半を1 b 号住居跡に破壊されているため、規模は不明である。

確認できた東西辺で3.15mを測り、平面形態は長方形ないし方形を呈すると想定される。主軸方位は、N-45°-Eを示す。

壁はやや角度をもって掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、23cm前後を測る。

カマドは、北壁を削り出し構築されていた。袖は粘土の造り付けで、右袖58cm、左袖50cmを測る。燃烧部は、長さ76cm、最大幅46cmを測る。底面は平坦で、煙道に向かい緩やかに立ち上がる。

壁溝・ピットは、確認できなかった。

遺物は、カマド内部から土師器の長胴甕2個体が見つれた状態で出土したのをはじめ、その周辺から土師器の坏・皿・甕が出土した。時期は7世紀末～8世紀初期と考えられる。



### 1 b号竪穴住居跡

調査区の南端に位置する。1 a号竪穴住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構の方が新しいことが確認された。

住居の南コーナー周辺が調査区域外にあるが、平面形態は長方形を呈すると考えられる。規模は、南北4.2m、東西4.9mを測る。主軸方位は、N-63° -Eを示す。

壁は角度をもち掘り込まれ、床面はほぼ平坦である。確認面からの深さは、40cm前後を測る。

ピットは、西壁に接して2基が検出された。ピット1は、直径46cm、深さ20cm、ピット2は直径43cm、深さ14cmを測る。

壁溝は、全周すると推測され、幅15～25cm、床面からの深さ4～6cmを測る。

カマドは、北壁を削り出し構築されていた。袖は粘土の造り付けで、右袖30cm、左袖55cmを測る。燃烧部は、長さ70cm、最大幅86cmを測る。底面はほぼ平坦で、煙道に向かい緩やかに立ち上がる。

出土遺物は、西壁付近から比較的多く出土した。土師器の坏・甕・小型甕・台付甕、須恵器の坏・蓋・高台碗・長頸瓶・甕、土錘、椀形滓、磨痕石などが出土した。なお、No.3は土師器の坏で、底面に墨書が見られる。これらの時期は8世紀第3四半期と考えられる。

### 2号竪穴住居跡

調査区の北東に位置する。3号竪穴住居跡・4号竪穴住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が最も新しいことが確認された。

平面形態は長方形を呈し、長軸4.7m、短軸3.3mを測る。主軸方位は、N-68° -Eを示す。

壁は角度をもち掘り込まれ、床面はほぼ平坦である。確認面からの深さは、38cm前後を測る。

ピットは、4基が検出された。最小のピット3は直径36cm、深さ25cm、最大のピット1は直径53cm、深さ40cmを測る。

壁溝は、全周して検出された。幅24～32cm、床面からの深さ3～8cmを測る。

カマドは、北壁を削り出し構築されていた。袖は粘土の造り付けで、右袖56cm、左袖61cmを測る。燃烧部は、長さ130cm、最大幅58cmを測る。底面は若干の凹凸をもちながら、煙道に向かい緩やかに立ち上がる。

出土遺物は、カマド手前及び西壁付近から出土した。

土師器の坏・皿・鉢・甕・小型甕・台付甕、須恵器の坏・蓋・盤・鉢・壺・横瓶・甕、鉄鏃、土錘、磨痕石などが出土した。また、帯金具の蛇尾の出土は注目される。これらの時期は、8世紀第3四半期と考えられる。

### 3号竪穴住居跡

調査区の北東隅に位置する。2号竪穴住居跡・4号竪穴住居跡と重複し、切り合い関係から4号住→3号住→2号住の順に新しくなっていくことが確認された。

住居の北東部が調査区域外にあるため、全容は不明である。平面形態は長方形ないし方形を呈すると想定され、南北3.8m、東西3.3m以上を測る。主軸方位は、不明である。

壁は角度をもち掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、40cm前後を測る。

ピットは、床面中央に1基が検出された。直径50cm、深さ14cmを測る。

壁溝は、確認できた範囲で検出され、幅12～20cm、床面からの深さ8～10cmを測る。

カマドは、調査区域内では確認できなかった。

出土した遺物は少なく、図示でき得たのは土師器の坏3点である。時期は8世紀初頭と考えられる。

### 4号竪穴住居跡

調査区の北東隅に位置する。2号竪穴住居跡・4号竪穴住居跡と重複し、新旧関係については3号住居跡で述べたとおりである。

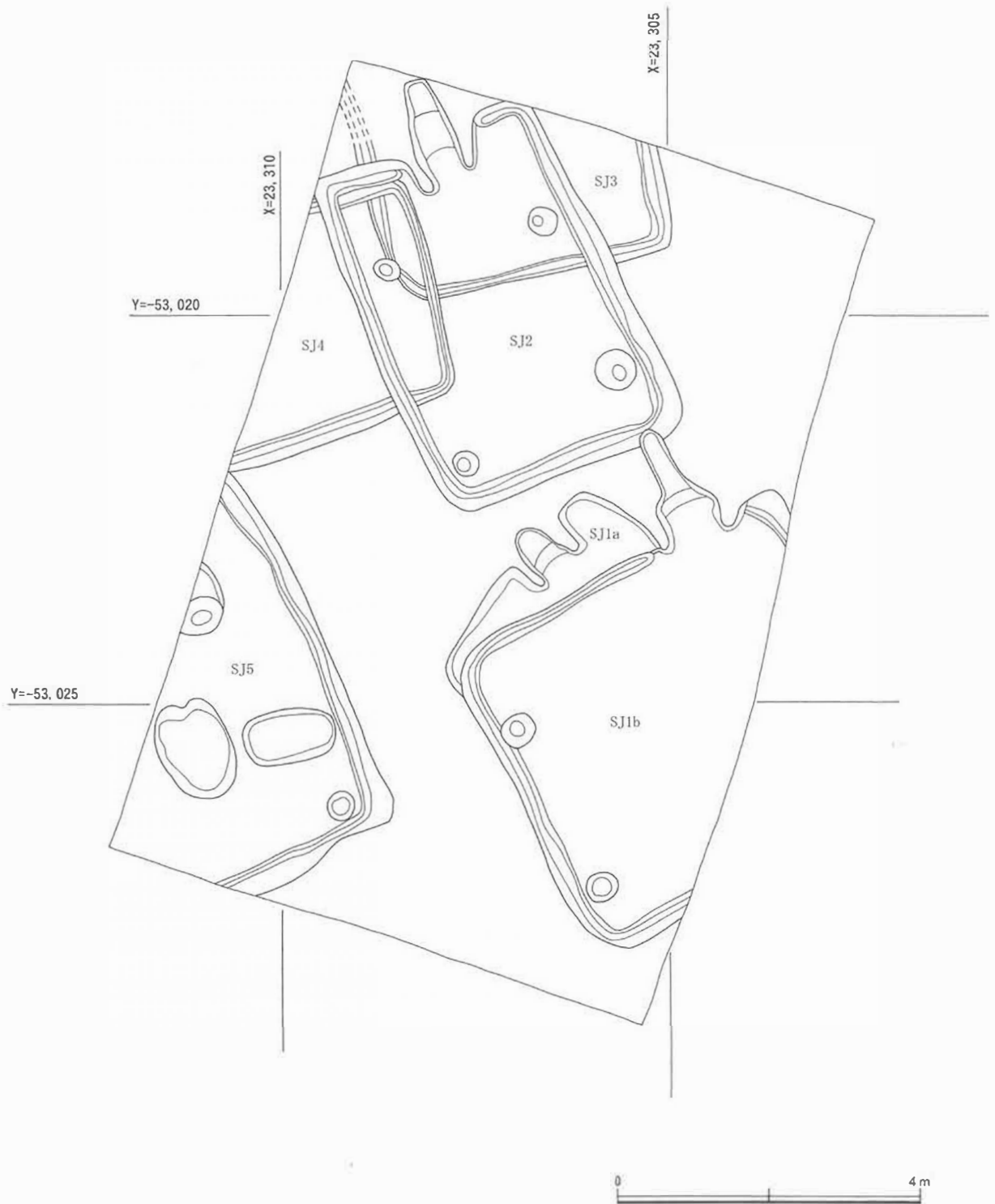
住居の北部が調査区域外にあるため、全容は不明である。平面形態は長方形を呈すると想定され、東西3.1m、南北3.1m以上を測る。主軸方位は、不明である。

壁は角度をもち掘り込まれ、床面はほぼ平坦である。確認面からの深さは、44cm前後を測る。

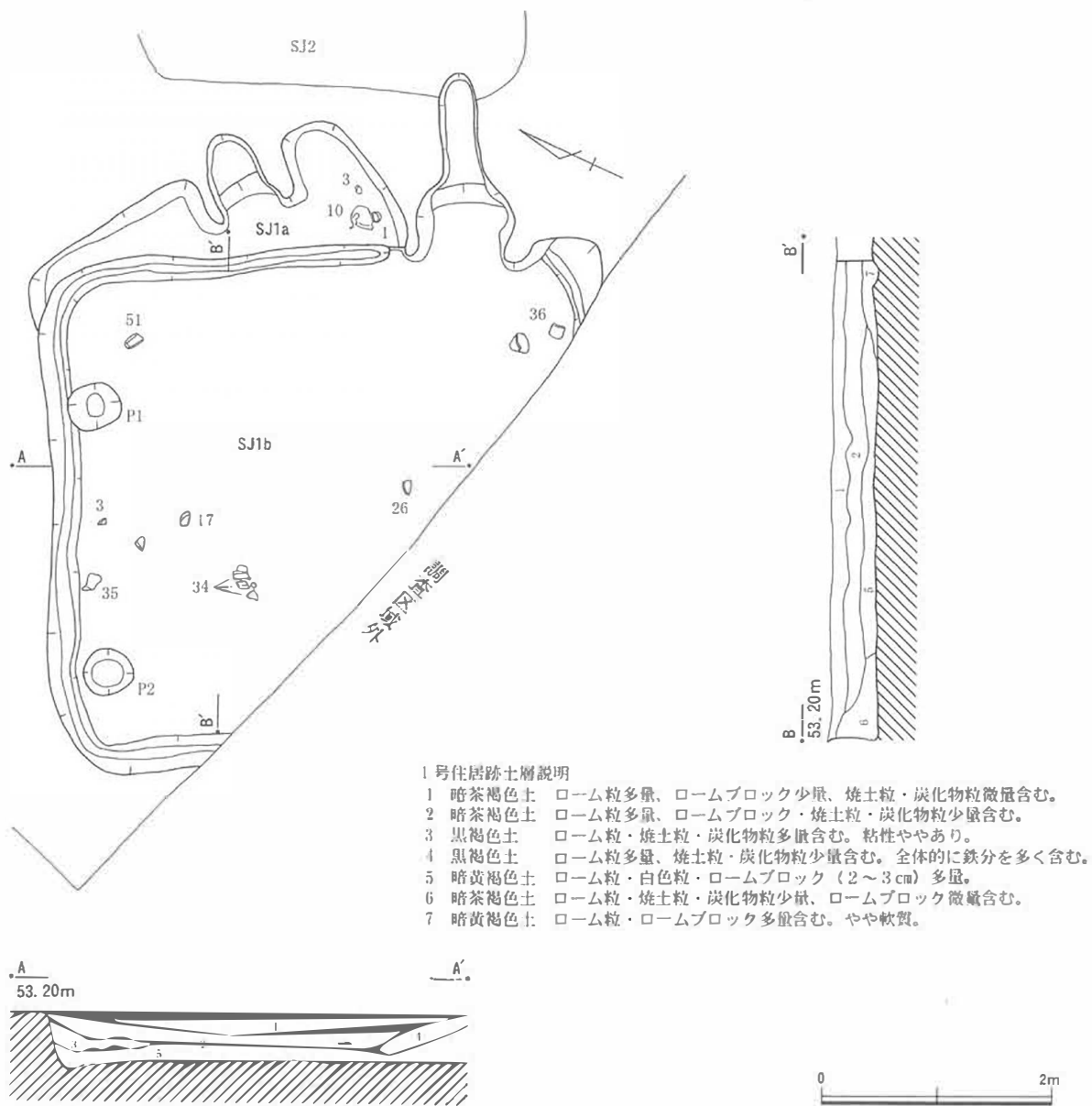
壁溝は、確認できた範囲で検出され、幅10～12cm、床面からの深さ5cm前後を測る。

カマドとピットは、調査区域内では確認できなかった。

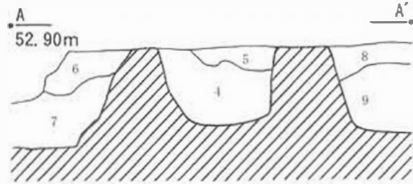
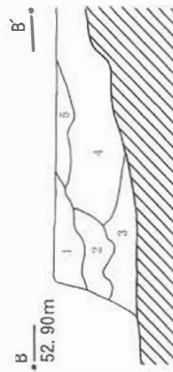
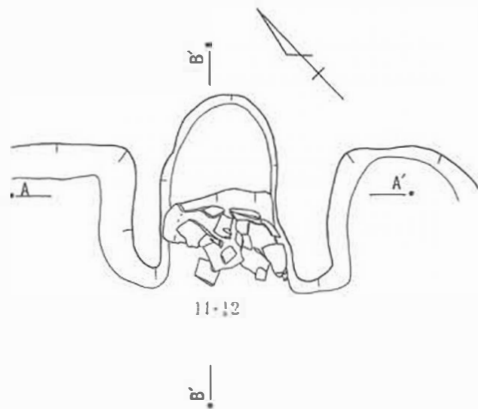
出土遺物は、土師器の坏・皿・器台・甕・小型甕、須恵器の碗・蓋・盤・甕などが出土した。時期は7世紀後半と考えられる。



第4図 熊野遺跡163次調査全測図



第5図 1号住居跡実測図

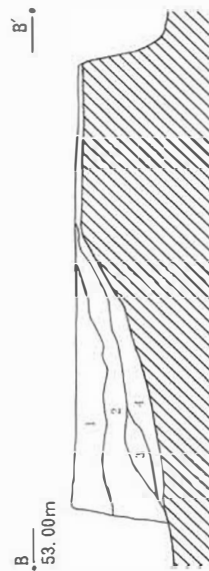
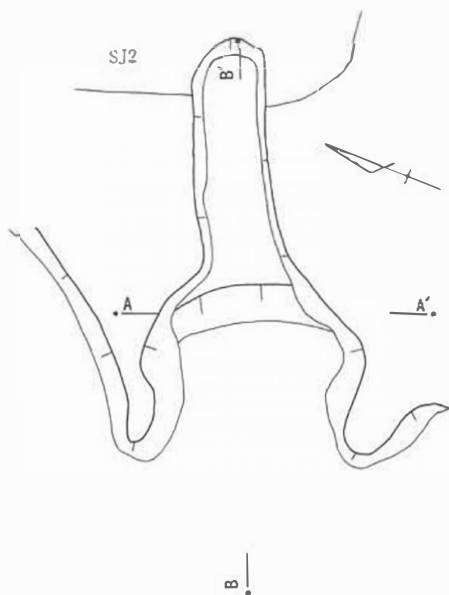


1号住居跡カマド土層説明

- |         |                         |
|---------|-------------------------|
| 1 暗黄褐色土 | ローム粒多量、焼土粒少量含む。         |
| 2 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒少量含む。           |
| 3 黄褐色土  | 黄褐色ローム主体。粘性あり。          |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。粘性あり。 |
| 5 暗黄褐色土 | ローム粒多量含む。               |
| 6 暗黄褐色土 | ローム粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。    |
| 7 黒褐色土  | ローム粒少量含む。軟質。            |
| 8 暗褐色土  | ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。      |
| 9 黒褐色土  | 8層に近似する。                |

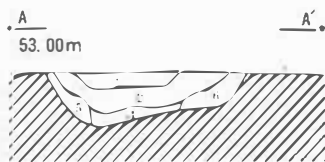


第6図 1 a号住居跡カマド実測図



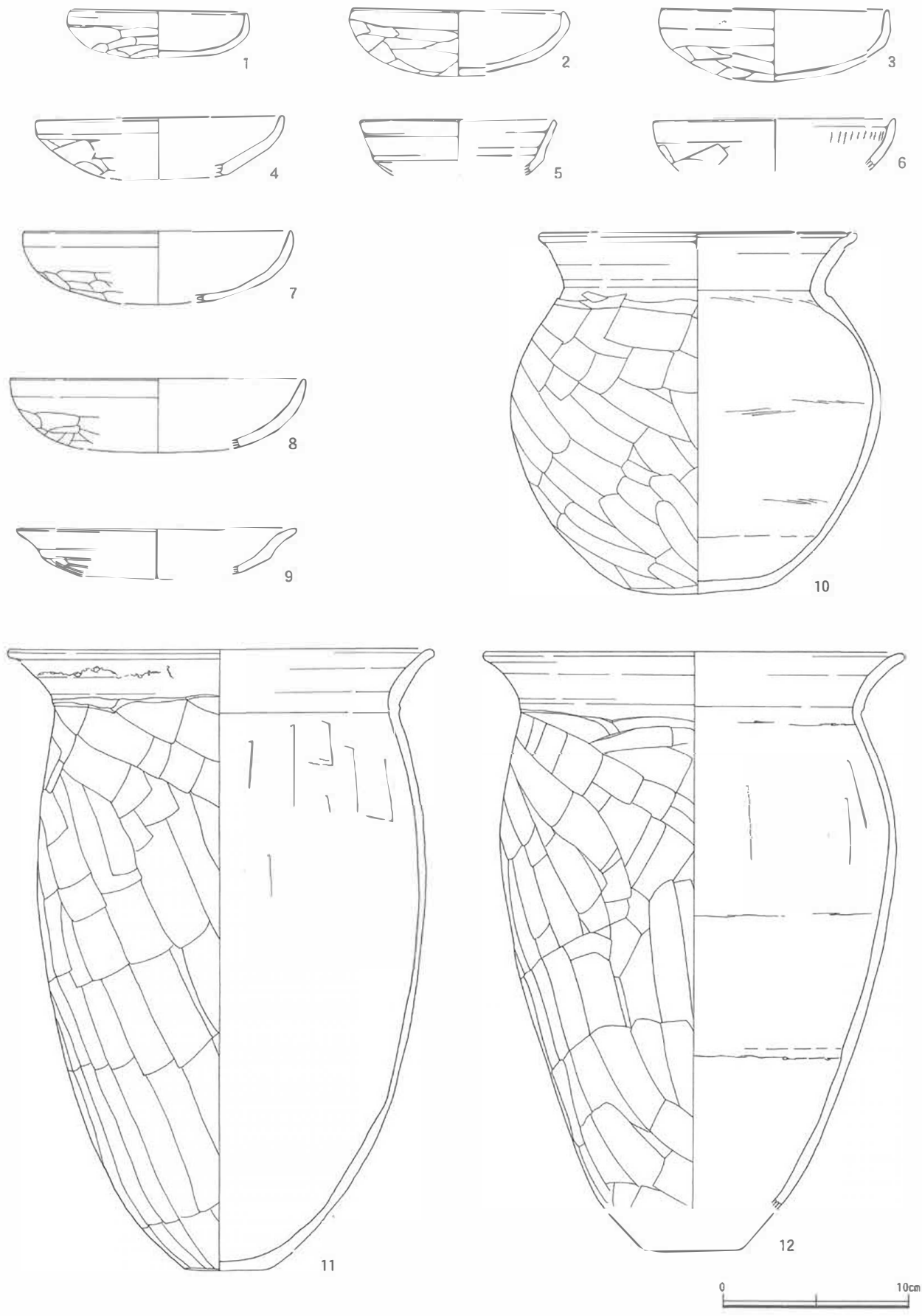
1号住居跡カマド土層説明

- |         |                              |
|---------|------------------------------|
| 1 暗褐色土  | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。          |
| 2 暗黄褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を多量含む。          |
| 3 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。          |
| 4 黒褐色土  | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。          |
| 5 暗黄褐色土 | 焼土ブロック多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。      |
| 6 暗茶褐色土 | ローム粒多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。やや粘性あり。 |

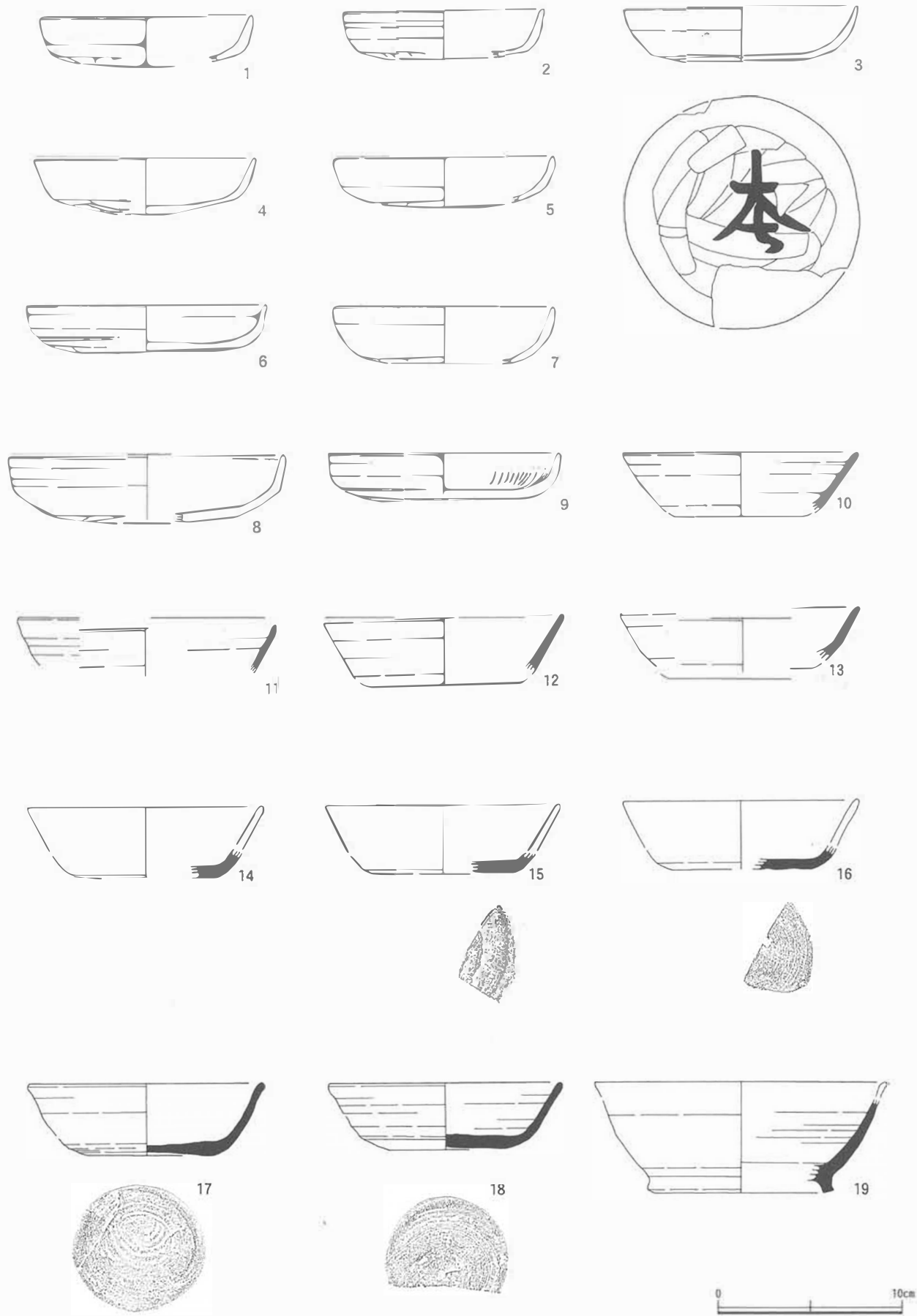


第7図 1 b号住居跡カマド実測図



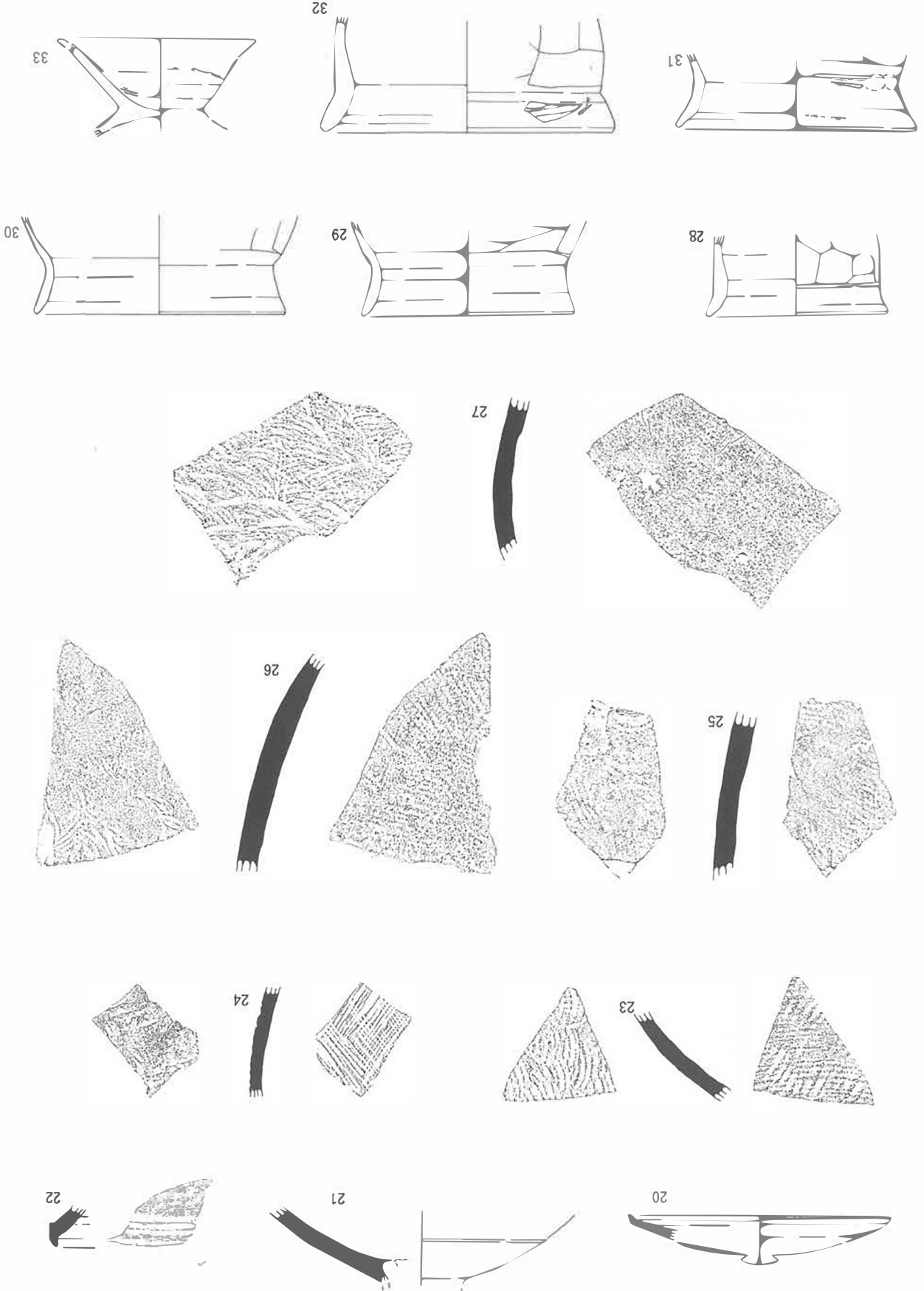


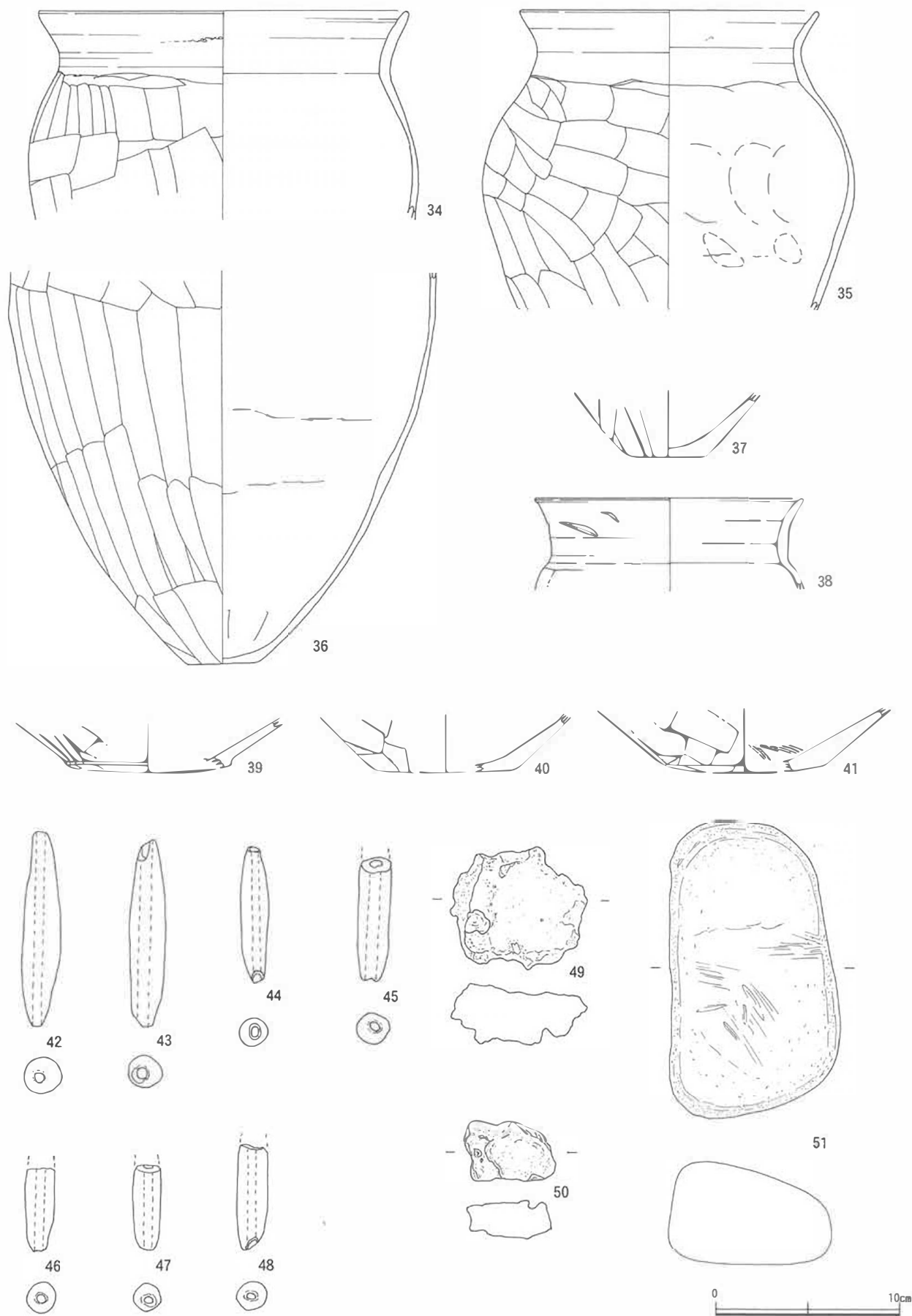
第8图 1a号住居跡出土遺物実測図



第9图 1b号住居跡出土遺物実測図(1)

第10图 1b号住居跡出土遺物素描圖(2)





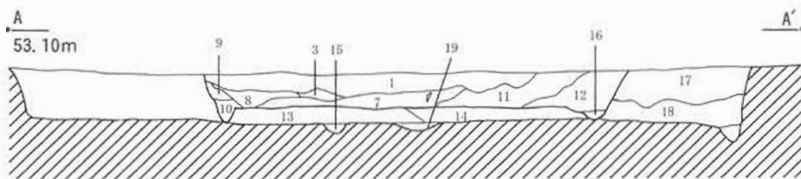
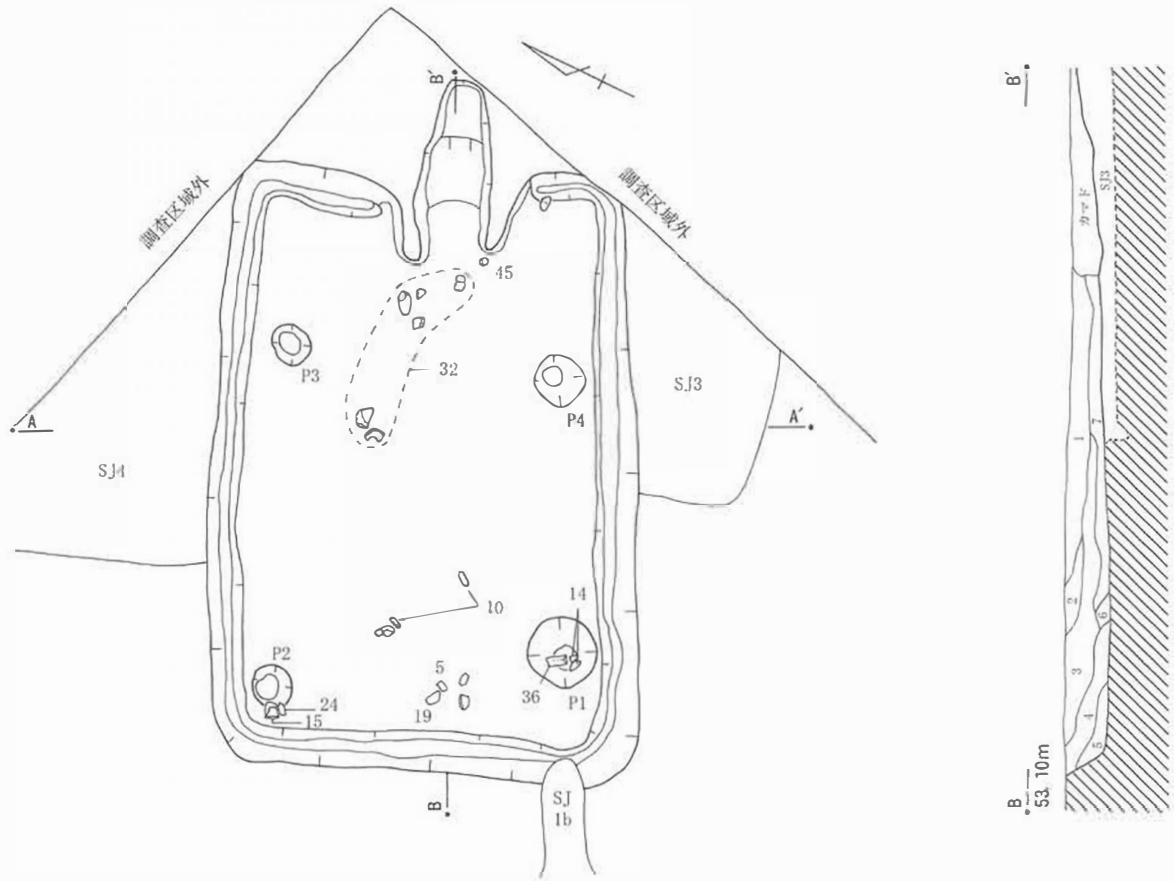
第11图 1b号住居跡出土遺物実測図(3)

1 a号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	土師・坏	9.5	2.6	-	橙褐色	良好	雲母、微砂粒	99%	図示
2	土師・坏	11.3	3.4	-	橙色	普通	石英、角閃石、砂粒	90%	カマド
3	土師・坏	12.0	3.9	-	にぶい橙色	普通	石英、角閃石、砂粒	70%	図示
4	土師・坏	(13.2)	(3.4)	-	橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	覆土
5	土師・坏	(10.4)	《2.9》	-	灰茶褐色	普通	角閃石、微砂粒	図示10%	覆土
6	土師・坏	(12.8)	《2.8》	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示20%	覆土
7	土師・坏	(14.2)	(3.9)	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石(精良)	25%	覆土
8	土師・坏	(15.7)	《3.8》	-	明橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示20%	覆土
9	土師・皿	(14.8)	(2.7)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示10%	覆土
10	土師・甕	16.7	19.4	-	灰褐色	普通	石英、長石、角閃石、砂粒	80%	図示
11	土師・甕	(22.4)	33.3	(4.7)	にぶい橙褐色	普通	石英、長石、角閃石、雲母、ハミス、砂粒	80%	カマド図示
12	土師・甕	22.2	《29.8》	-	にぶい橙褐色	普通	石英、雲母、角閃石、砂粒	90%	カマド図示

1 b号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	土師・坏	(11.3)	(2.7)	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石	図示25%	覆土
2	土師・坏	(10.7)	(2.6)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母	図示20%	覆土
3	土師・坏	12.4	3.0	-	暗赤褐色	良好	石英、角閃石	80%	図示、底部外面に墨書あり「本」か
4	土師・坏	(11.8)	3.1	-	灰褐色	普通	石英、角閃石	30%	覆土
5	土師・坏	(11.7)	(2.7)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示30%	覆土
6	土師・坏	(12.8)	2.6	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート、砂粒	45%	覆土
7	土師・坏	(11.8)	(3.1)	-	にぶい橙褐色	普通	石英、角閃石	図示40%	覆土
8	土師・坏	(14.8)	(3.6)	-	灰橙褐色	普通	長石、角閃石	図示25%	覆土
9	土師・坏	(12.4)	2.6	-	にぶい橙褐	普通	石英、角閃石、チャート、砂粒	35%	覆土、内面放射状暗文
10	須恵・坏	(12.5)	《3.2》	-	灰色	良好	石英、長石、黒色粒	図示40%	覆土、火燂痕、末野
11	須恵・坏	(13.9)	《3.1》	-	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒、片岩	図示10%	覆土、末野
12	須恵・坏	(12.8)	《3.2》	-	灰色	良好	石英、長石、黒色粒	図示10%	覆土、末野
13	須恵・坏	(12.8)	《2.9》	-	黄灰色	不良	石英、長石、片岩、黒色粒	図示10%	覆土、磨滅あり、末野
14	須恵・坏	-	《1.6》	(7.5)	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示20%	覆土、底部周辺回転痕、火燂痕
15	須恵・坏	-	《1.1》	(8.5)	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	図示20%	覆土、末野
16	須恵・坏	-	《1.2》	(7.5)	明灰色	良好	石英、長石、針状物	図示10%	覆土、底部全面回転痕、南比企
17	須恵・坏	(12.5)	3.9	6.7	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	60%	図示、底部周辺回転痕、5号住と接合、末野
18	須恵・坏	(12.4)	3.6	6.2	にぶい黄灰色	不良	石英、長石、片岩、微砂粒	50%	覆土、底部全面回転痕、末野
19	須恵・高台碗	-	《5.1》	(9.9)	灰黄褐色	やや悪	石英、長石、黒色粒	図示15%	覆土、末野
20	須恵・蓋	(13.4)	《1.3》	-	灰白色	不良	チャート、片岩、砂粒	図示10%	覆土、磨滅あり、末野
21	須恵・長頸瓶	-	《4.0》	-	明灰色	普通	石英、長石、片岩	図示15%	覆土、末野
22	須恵・甕	-	-	-	青灰色	良好・堅緻	長石、細礫	破片	覆土、末野
23	須恵・甕	-	-	-	明灰色	良好	長石、細礫	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
24	須恵・甕	-	-	-	明灰色	良好	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
25	須恵・甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
26	須恵・甕	-	-	-	灰黒色	良好	石英、長石	破片	図示、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
27	須恵・甕	-	-	-	灰黒色	良好	石英、長石、細礫	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
28	土師・小型甕	(9.5)	《4.4》	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、雲母、砂粒	図示20%	覆土
29	土師・小型甕	(11.2)	《5.1》	-	暗赤褐色	普通	石英、角閃石、雲母、砂粒	図示30%	覆土
30	土師・小型甕	(13.3)	《5.3》	-	にぶい褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示20%	覆土
31	土師・台付甕	(12.7)	《4.1》	-	にぶい赤褐色	普通	微砂粒、針状物	図示25%	覆土
32	土師・小型甕	(15.4)	《6.2》	-	灰赤褐色	やや悪	雲母、微砂粒	図示20%	覆土、内面に油脂状黒斑
33	土師・台付甕	-	-	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示70%	覆土
34	土師・甕	(19.8)	《11.4》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母、砂粒	図示60%	図示
35	土師・甕	(15.8)	《16.2》	-	暗赤褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示30%	図示
36	土師・甕	-	《21.2》	3.7	橙褐色	普通	石英、長石、角閃石、雲母	図示60%	図示
37	土師・甕	-	《3.6》	4.3	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示30%	覆土
38	土師・台付甕	(14.4)	《5.0》	-	にぶい黄赤色	普通	石英、角閃石、ハミス、砂粒	図示15%	覆土
39	土師・甕	-	《3.1》	(9.0)	黒褐色	普通	石英、微砂粒	図示35%	覆土
40	土師・甕	-	《3.2》	(7.5)	茶褐色	普通	石英、角閃石、ハミス、砂粒	図示10%	覆土
41	土師・甕	-	《3.5》	(8.8)	黒褐色	普通	石英、長石、ハミス	図示15%	覆土
42	土錘	長さ7.0cm	幅1.3cm	孔径0.3cm	重さ9.8g	普通	精良	100%	カマド
43	土錘	長さ6.7cm	幅1.3cm	孔径0.3cm	重さ9.7g	普通	精良	99%	覆土
44	土錘	長さ4.9cm	幅1.0cm	孔径0.3cm	重さ4.3g	普通	精良	99%	覆土
45	土錘	長さ4.5cm	幅1.2cm	孔径0.4cm	重さ5.6g	普通	微砂粒	70%	覆土
46	土錘	長さ3.0cm	幅1.0cm	孔径0.3cm	重さ2.7g	普通	精良	50%	覆土
47	土錘	長さ3.0cm	幅1.0cm	孔径0.3cm	重さ2.8g	普通	精良	50%	覆土
48	土錘	長さ3.8cm	幅1.1cm	孔径0.3cm	重さ4.1g	普通	精良	60%	覆土
49	碗形滓	長さ7.3cm	幅6.6cm	厚さ3.2cm	重さ158.9g	磁着度弱			覆土、上面は平坦でやや発泡、下面は縮縮状
50	鉄滓	長さ4.9cm	幅3.7cm	厚さ2.0cm	重さ46.1g	磁着度弱			覆土、表面若干発泡
51	磨痕石	長さ16.1cm	幅9.1cm	厚さ5.4cm	重さ1260g	石質砂岩			図示、被熱あり

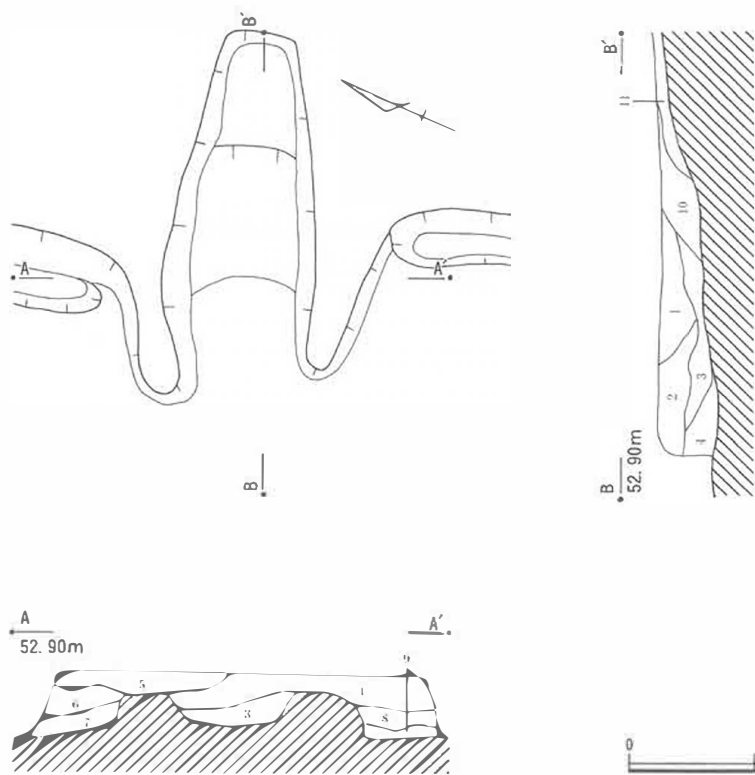


2号住居跡土層説明

- |    |       |                                |
|----|-------|--------------------------------|
| 1  | 暗黄褐色土 | ローム粒を多量、ロームブロック・炭化物粒・焼土粒を少量含む。 |
| 2  | 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。            |
| 3  | 暗茶褐色土 | ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。         |
| 4  | 暗黄褐色土 | ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。         |
| 5  | 黒褐色土  | ローム粒・炭化物粒を多量、焼土粒を少量含む。         |
| 6  | 暗黄褐色土 | ロームブロック主体。粘性あり。                |
| 7  | 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。鉄分を含む。      |
| 8  | 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を多量含む。            |
| 9  | 暗黄褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。            |
| 10 | 暗黄褐色土 | ローム粒を少量含む。                     |
| 11 | 暗黄褐色土 | ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。         |
| 12 | 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化物粒を少量含む。            |
| 13 | 暗黄褐色土 | ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。         |
| 14 | 暗黄褐色土 | ロームブロックを多量含む。                  |
| 15 | 黒褐色土  | ローム粒・ロームブロックを多量含む。             |
| 16 | 黒褐色土  | ローム粒・ロームブロックを多量含む。             |
| 17 | 暗黄褐色土 | ローム粒・ロームブロックを多量含む。             |
| 18 | 暗茶褐色土 | ローム粒・ロームブロックを多量含む。             |
| 19 | 黒褐色土  | ローム粒を多量含む。                     |

} 3号住

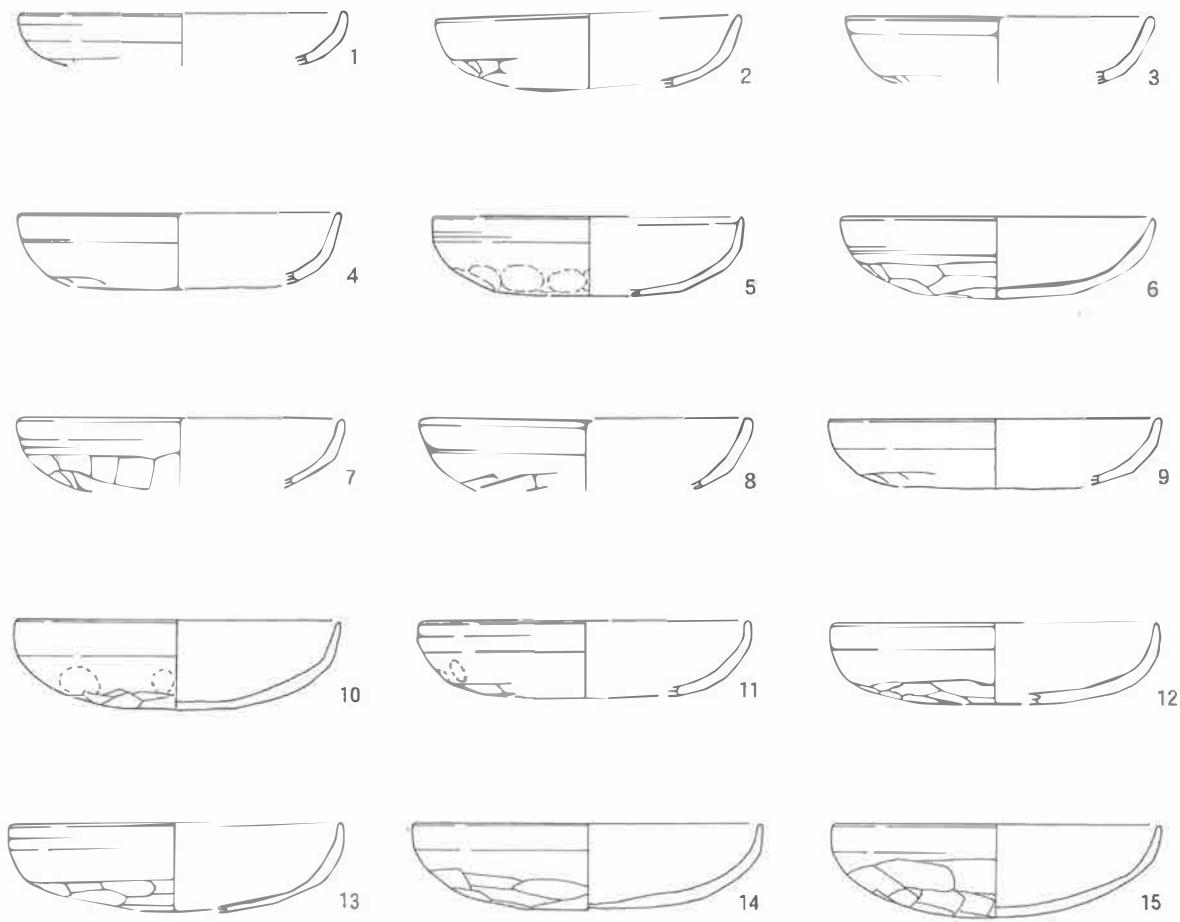
第12図 2号住居跡実測図



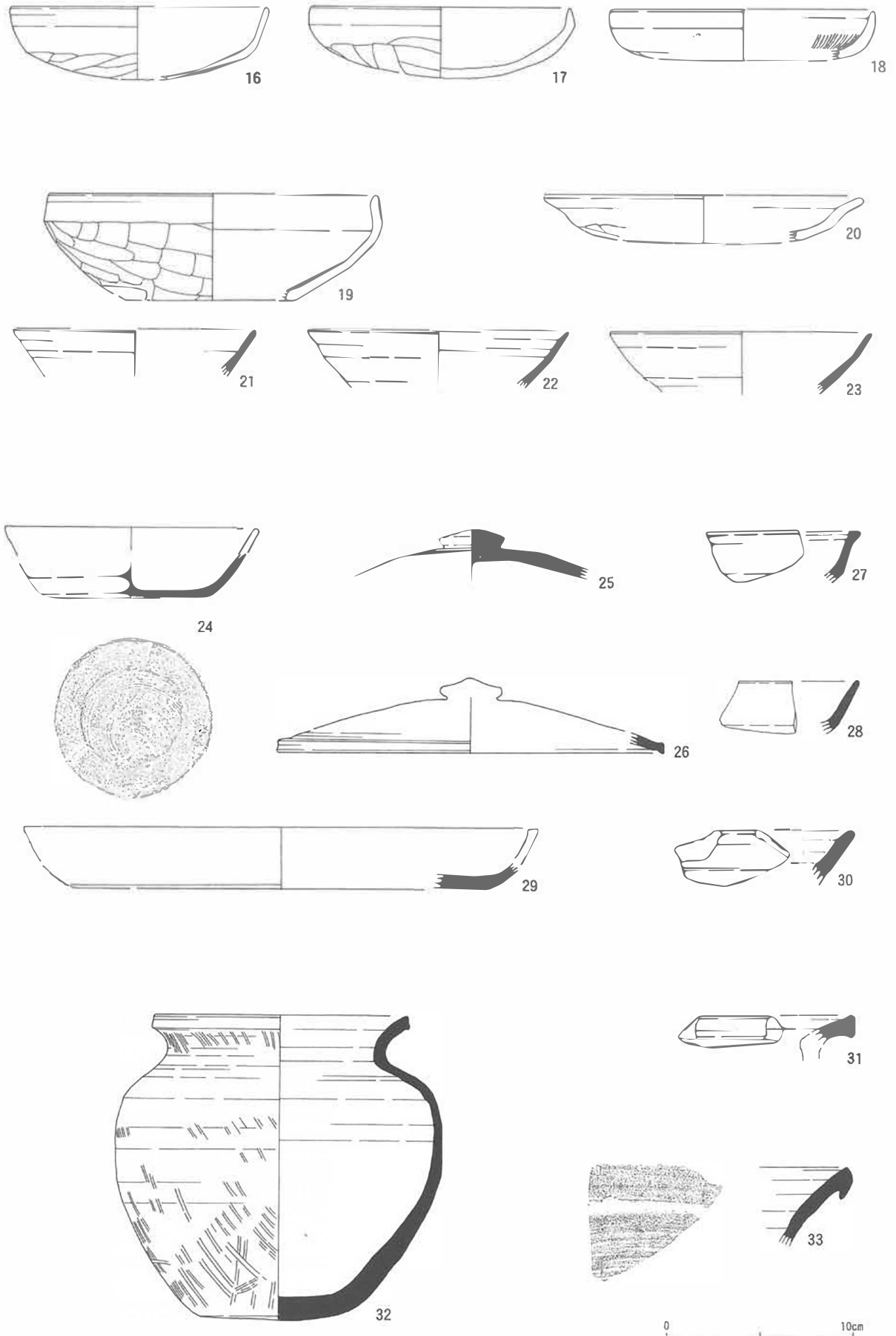
2号住居跡カマド土層説明

- 1 暗茶褐色土 ローム粒多量、焼土粒少量含む。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒多量、ロームブロック少量含む。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒・ロームブロック多量含む。粘性ややあり。
- 4 黒褐色土 ローム粒・ロームブロック少量含む。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒を多量含む。
- 6 暗茶褐色土 ローム粒・焼土粒を多量含む。
- 7 暗茶褐色土 ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
- 8 暗灰褐色土 灰褐色粘土ブロック主体。
- 9 黒褐色土 炭化物主体、焼土ブロックを若干含む。
- 10 暗灰褐色土 灰褐色粘土主体。焼土ブロック・炭化物粒を少量含む。
- 11 暗赤褐色土 焼土ブロックを多量、ローム粒を少量含む。

第13図 2号住居跡カマド実測図



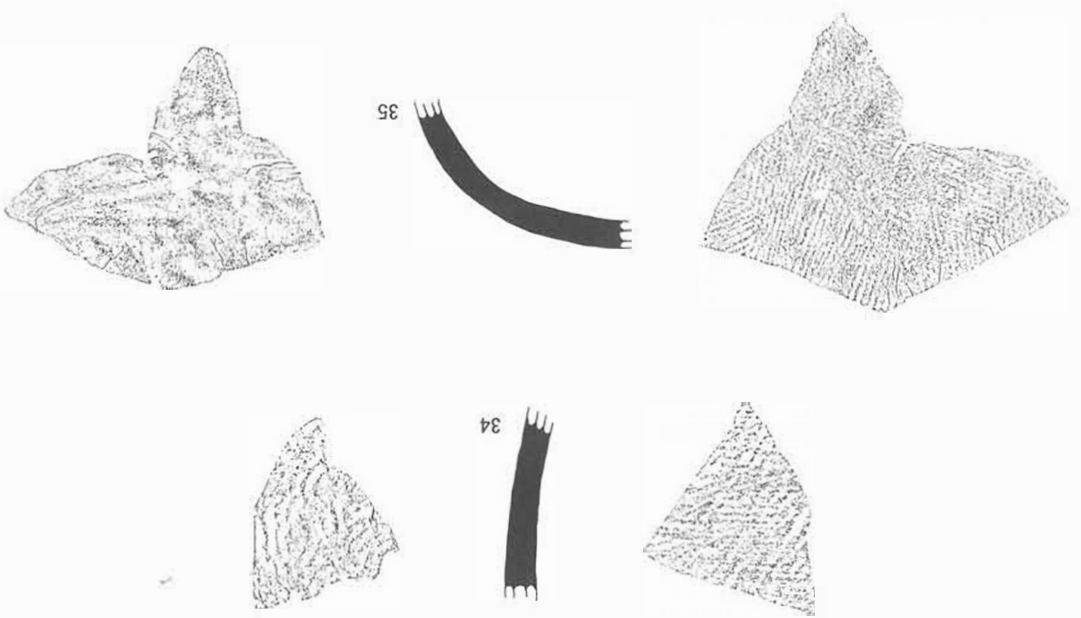
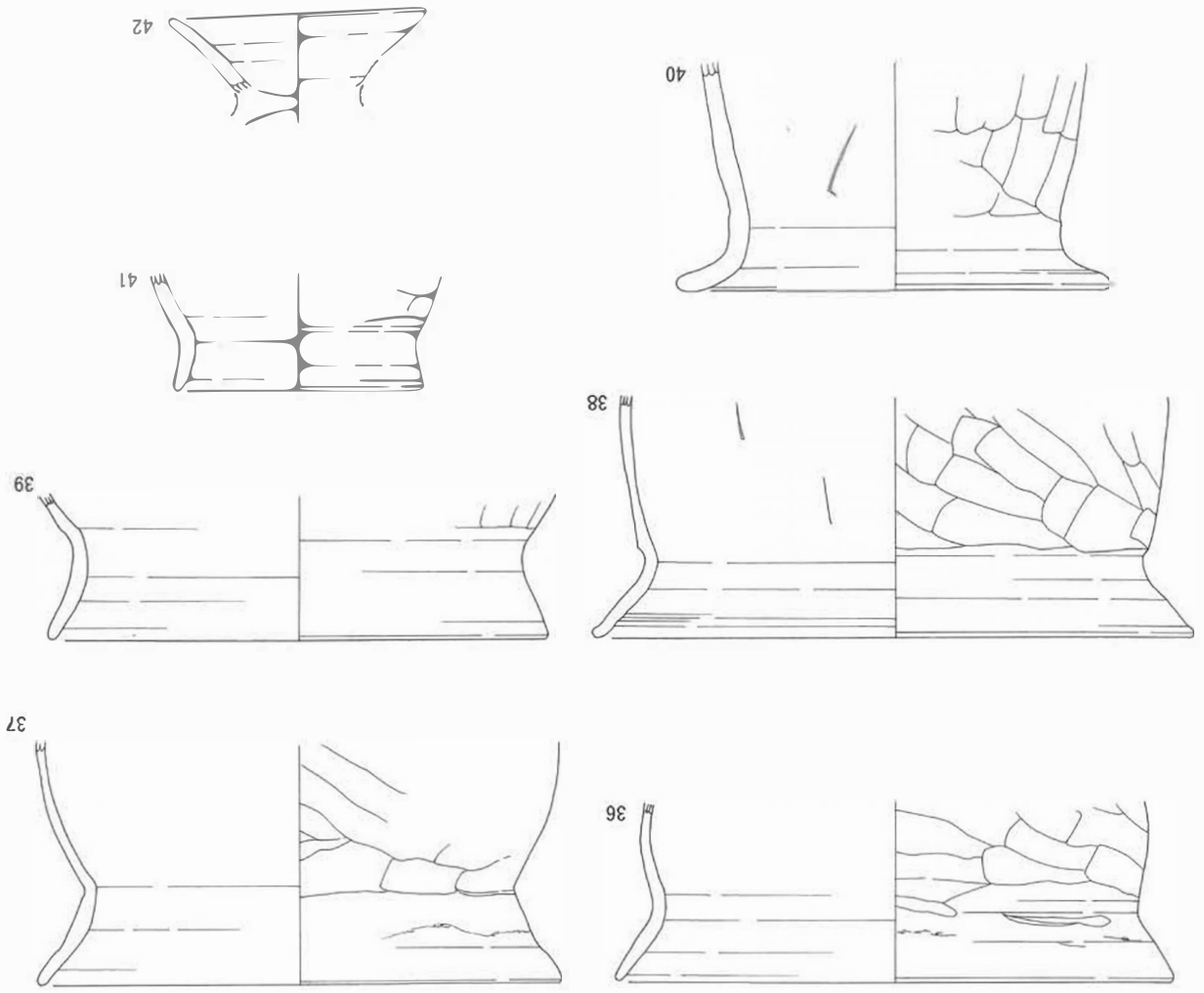
第14図 2号住居跡出土遺物実測図(1)

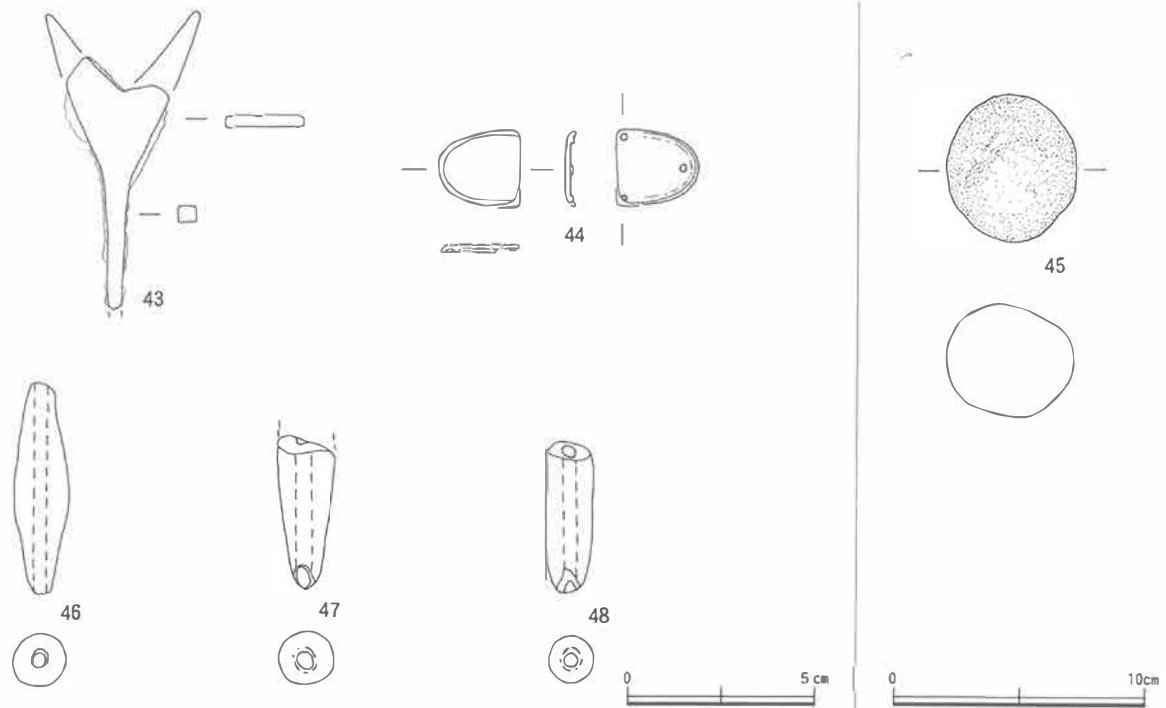


第15图 2号住居跡出土遺物実測図(2)



第16图 2号住居跡出土遺物素描圖(3)





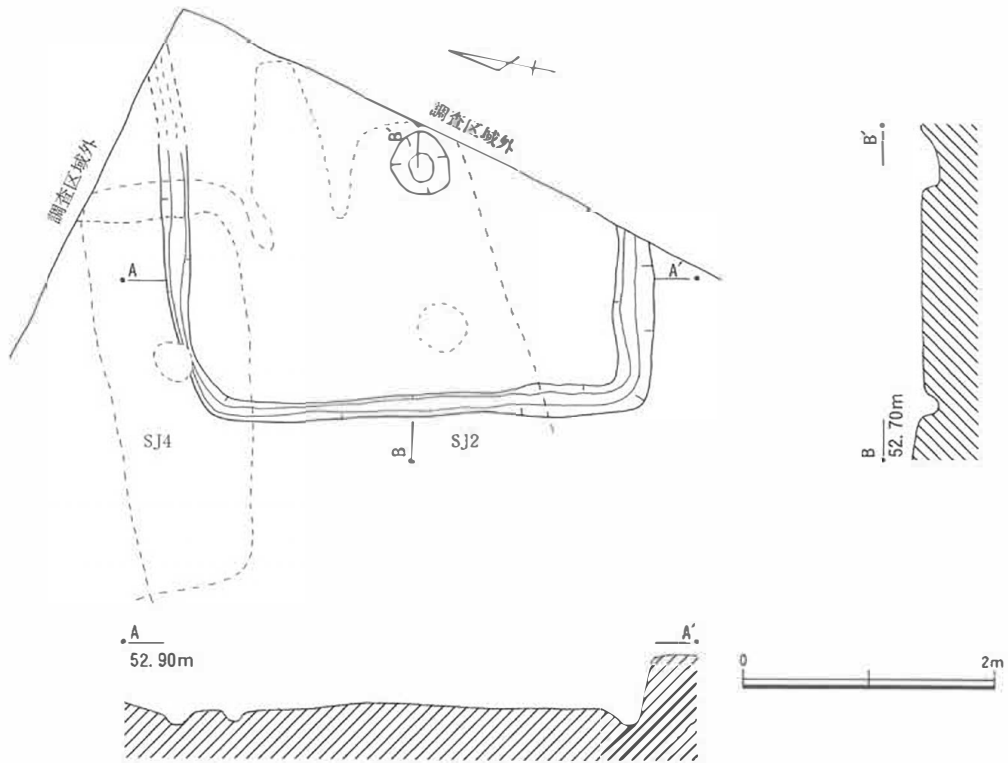
第17図 2号住居跡出土遺物実測図(4)

2号住居跡出土遺物観察表(1)

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	土師・坏	(12.7)	(2.1)	-	灰黄赤色	普通	微砂粒	図示15%	覆土
2	土師・坏	(11.9)	(3.0)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石	図示13%	覆土
3	土師・坏	(12.0)	(2.6)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示23%	覆土
4	土師・坏	(12.6)	(2.9)	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、バミス	図示15%	覆土
5	土師・坏	(12.1)	(3.1)	-	灰褐色	普通	石英、長石、角閃石	35%	図示
6	土師・坏	(12.2)	3.2	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、微砂粒	30%	覆土
7	土師・坏	(12.8)	(2.9)	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、雲母	図示30%	覆土
8	土師・坏	(12.7)	(2.8)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示25%	覆土
9	土師・坏	(13.0)	(2.7)	-	茶褐色	普通	石英、角閃石	図示15%	覆土
10	土師・坏	12.7	3.5	-	暗橙褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	85%	図示
11	土師・坏	(12.9)	(3.1)	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示25%	覆土
12	土師・坏	(12.7)	(3.2)	-	にぶい黄赤色	普通	石英、角閃石	35%	覆土
13	土師・坏	(13.0)	(3.5)	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	40%	覆土
14	土師・坏	13.6	3.4	-	灰黄赤色	普通	石英、雲母、角閃石、赤色粒	90%	図示
15	土師・坏	12.8	3.7	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、雲母	75%	図示
16	土師・坏	(13.6)	(3.9)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石	45%	覆土
17	土師・坏	(13.8)	3.7	-	黄赤色	普通	石英、角閃石、微砂粒	60%	覆土
18	土師・坏	(13.9)	(2.7)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示15%	覆土、内面放射状暗文
19	土師・鉢	17.4	5.7	(8.9)	橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート	50%	図示
20	土師・皿	(16.8)	(2.6)	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示10%	覆土
21	須恵・坏	(12.7)	(2.6)	-	明灰色	普通	石英、長石	図示20%	覆土、末野
22	須恵・坏	(13.8)	(3.1)	-	にぶい青灰色	普通	石英、長石	図示12%	カマド、末野
23	須恵・坏	(13.8)	(3.4)	-	灰茶褐色	不良	石英、砂粒、赤色粒	図示25%	覆土、末野
24	須恵・坏	-	(2.4)	8.5	明灰色	良好	石英、長石、針状物	図示70%	図示、1号住と接合、底部周辺窪、南比企、火燐痕
25	須恵・蓋	-	(2.8)	-	灰褐色	不良	石英、片岩、雲母、微砂粒	図示20%	覆土、磨滅あり、末野
26	須恵・蓋	(20.4)	(1.1)	-	明灰色	普通	石英、長石、雲母	図示10%	覆土、末野
27	須恵・盤	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、バミス	破片	覆土、末野
28	須恵・盤	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、バミス	破片	覆土、末野
29	須恵・盤	-	(1.5)	(22.8)	灰色	普通	石英、長石	図示10%	覆土、末野
30	須恵・鉢	-	-	-	淡灰色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、末野
31	須恵・鉢	-	-	-	灰白色	やや悪	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、末野
32	須恵・壺	13.3	16.2	7.4	灰色	良好	石英、長石	95%	図示、外面平行叩き後回転ナデ、末野
33	須恵・甕	-	-	-	灰褐色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、頸部外面にハケ目
34	須恵・甕	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
35	須恵・横瓶	-	-	-	灰色	良好	石英、長石、砂粒	破片	覆土、外面平行叩き、内面ナデ、末野
36	土師・甕	(22.1)	(7.3)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示30%	図示
37	土師・甕	(20.9)	(9.8)	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、長石、砂粒	図示25%	カマド

2号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
38	土師・甕	(24.0)	《9.8》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート、砂粒	図示15%	覆土
39	土師・甕	(20.0)	《6.0》	-	暗黄褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示10%	カマド
40	土師・小型甕	(16.8)	《9.2》	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、バミス、砂粒	図示15%	覆土、混入
41	土師・小型甕	(9.9)	《1.8》	-	橙褐色	普通	石英、長石、角閃石(精良)	図示15%	覆土
42	土師・台付甕	-	《3.1》	10.2	にぶい黄赤色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示50%	覆土
43	鉄鏃	長さ0.7cm	幅2.7cm	厚さ0.4cm	重さ10.9g				覆土、雁又式
44	鈿尾	長さ2.2cm	幅2.1cm	厚さ0.2cm	重さ1.5g				覆土、表金具、磨滅
45	磨痕石	長さ5.8cm	幅5.1cm	厚さ4.5cm	重さ87.1g	石質角閃石安山岩			図示
46	土錘	長さ5.5cm	幅1.4cm	孔径0.3cm	重さ7.7g	普通	微砂粒	100%	覆土
47	土錘	長さ4.0cm	幅1.5cm	孔径0.4cm	重さ5.9g	普通	微砂粒	60%	覆土
48	土錘	長さ4.0cm	幅1.2cm	孔径0.4cm	重さ5.4g	普通	精良	70%	覆土



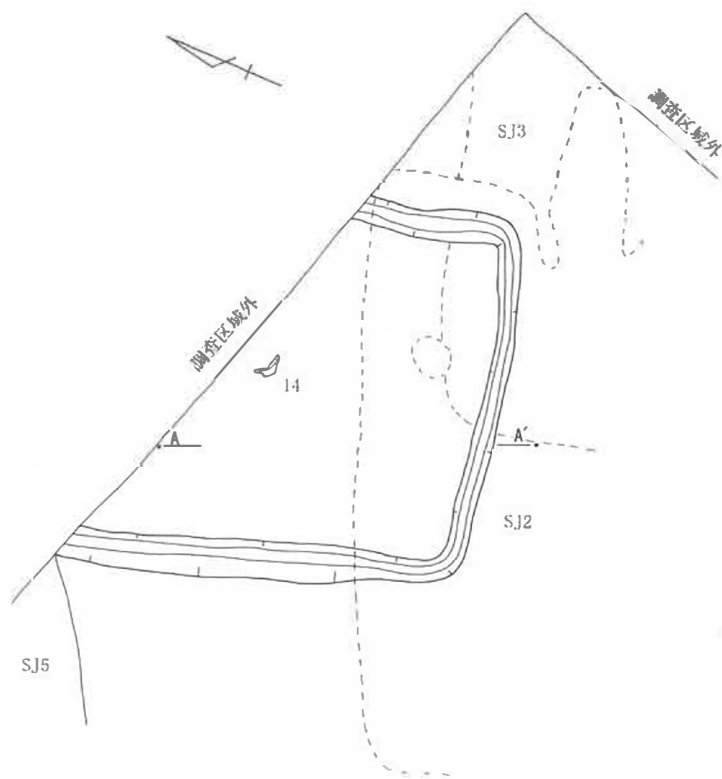
第18図 3号住居跡実測図



第19図 3号住居跡出土遺物実測図

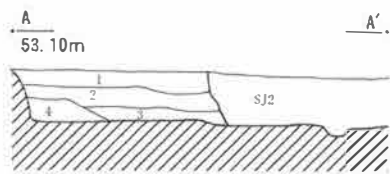
3号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	土師・坏	(11.4)	《2.4》	-	灰褐色	普通	石英、角閃石	図示8%	覆土、内面に油脂状黒色物
2	土師・坏	(11.0)	《2.5》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示10%	覆土
3	土師・坏	-	《2.5》	-	灰褐色	普通	微砂粒	破片	覆土

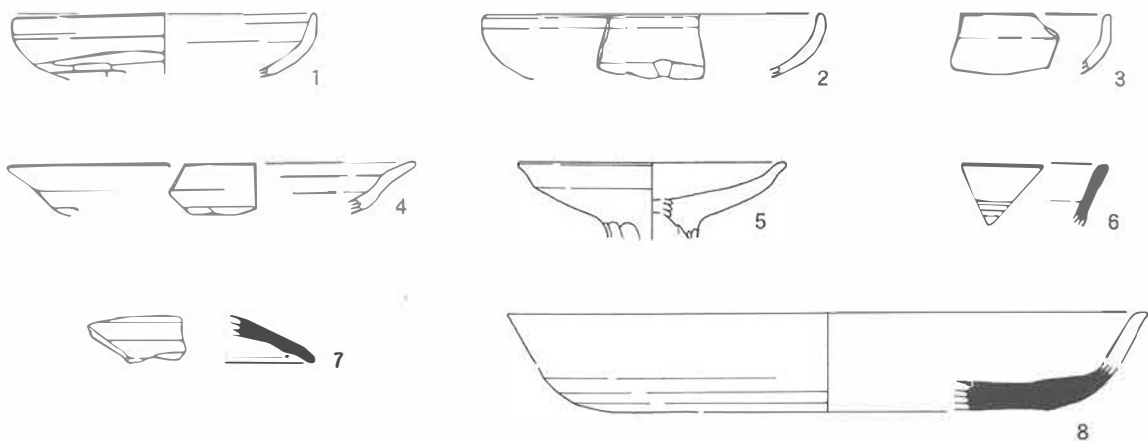


4号住居跡土層説明

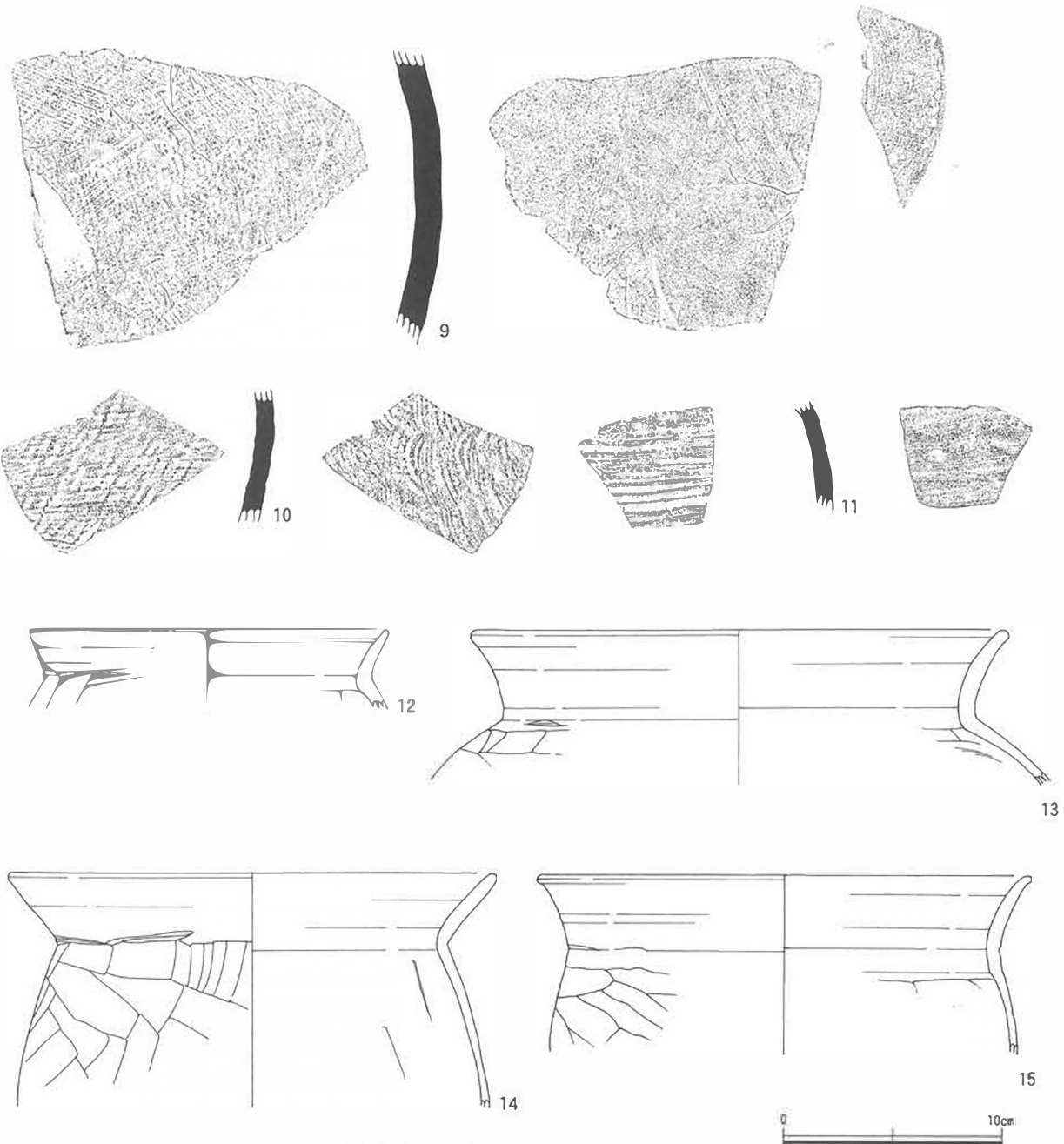
- 1 暗茶褐色土 ローム粒を多量含む。
- 2 暗茶褐色土 ローム粒を多量、ロームブロック・炭化物粒を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒を多量、ロームブロック・炭化物粒を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 3層に類似するが、ロームブロックの混入3層より多い。



第20図 4号住居跡実測図



第21図 4号住居跡出土遺物実測図(1)



第22図 4号住居跡出土遺物実測図(2)

4号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	土師・杯	(11.7)	《2.5》	-	灰赤褐色	普通	微砂粒	図示25%	覆土、外面に油脂状黒斑
2	土師・坏	(13.2)	《2.6》	-	橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示10%	覆土
3	土師・坏	-	《2.4》	-	橙褐色	普通	微砂粒	破片	覆土
4	土師・皿	(15.9)	《2.0》	-	暗灰赤色	普通	精良	破片	覆土、内外面に油脂状黒色物
5	土師・器台	(10.4)	《3.0》	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、赤色粒	図示10%	覆土、混入
6	須恵・碗	-	-	-	灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、稜碗、末野
7	須恵・蓋	-	-	-	明灰色	やや悪	石英、片岩、黒色粒	破片	覆土、末野、摩滅
8	須恵・盤	-	《1.9》	(20.0)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示15%	覆土、末野
9	須恵・瓿	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石	破片	覆土、外面平行叩き後ナデ、内面ナデ、末野
10	須恵・瓿	-	-	-	灰色	良好・堅緻	石英、長石	破片	覆土、外面平行叩き、内面青海波叩き、末野
11	須恵・瓿	-	-	-	明灰色	良好	石英、長石、(精良)	破片	覆土、外面平行叩き、内面回転ナデ、末野
12	土師・小型瓿	(16.2)	《3.2》	-	灰褐色	普通	石英、チャート、長石、微砂粒	図示20%	覆土
13	土師・瓿	(23.9)	《7.0》	-	にぶい橙褐色	普通	石英、雲母、微砂粒	図示15%	覆土
14	土師・瓿	(21.8)	《10.8》	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、チャート、砂粒	図示25%	図示
15	土師・瓿	(22.0)	《13.1》	-	橙褐色	普通	石英、パミス、角閃石、長石、砂粒	図示20%	覆土

### 5号竪穴住居跡

調査区の北西隅に位置する。

住居の北西部が調査区域外にあるため、全容は不明である。平面形態は長方形ないし方形を呈すると想定され、東西4.8m、南北2.4m以上を測る。主軸方位は、不明である。

壁は角度をもち掘り込まれ、床面は若干の凹凸をもつ。確認面からの深さは、45cm前後を測る。

壁溝は、確認できた範囲で検出され、幅12～20cm、床面からの深さ4cm前後を測る。

土坑は、床面上に2基が検出された。いずれも楕円形を呈し、直径100～120cm、深さ20～32cmを測る。また、ピットは南コーナーにおいて1基が検出された。平面形態は円形を呈し、直径40cm、深さ19cmを測る。

カマドは、調査区域内では確認できなかった。

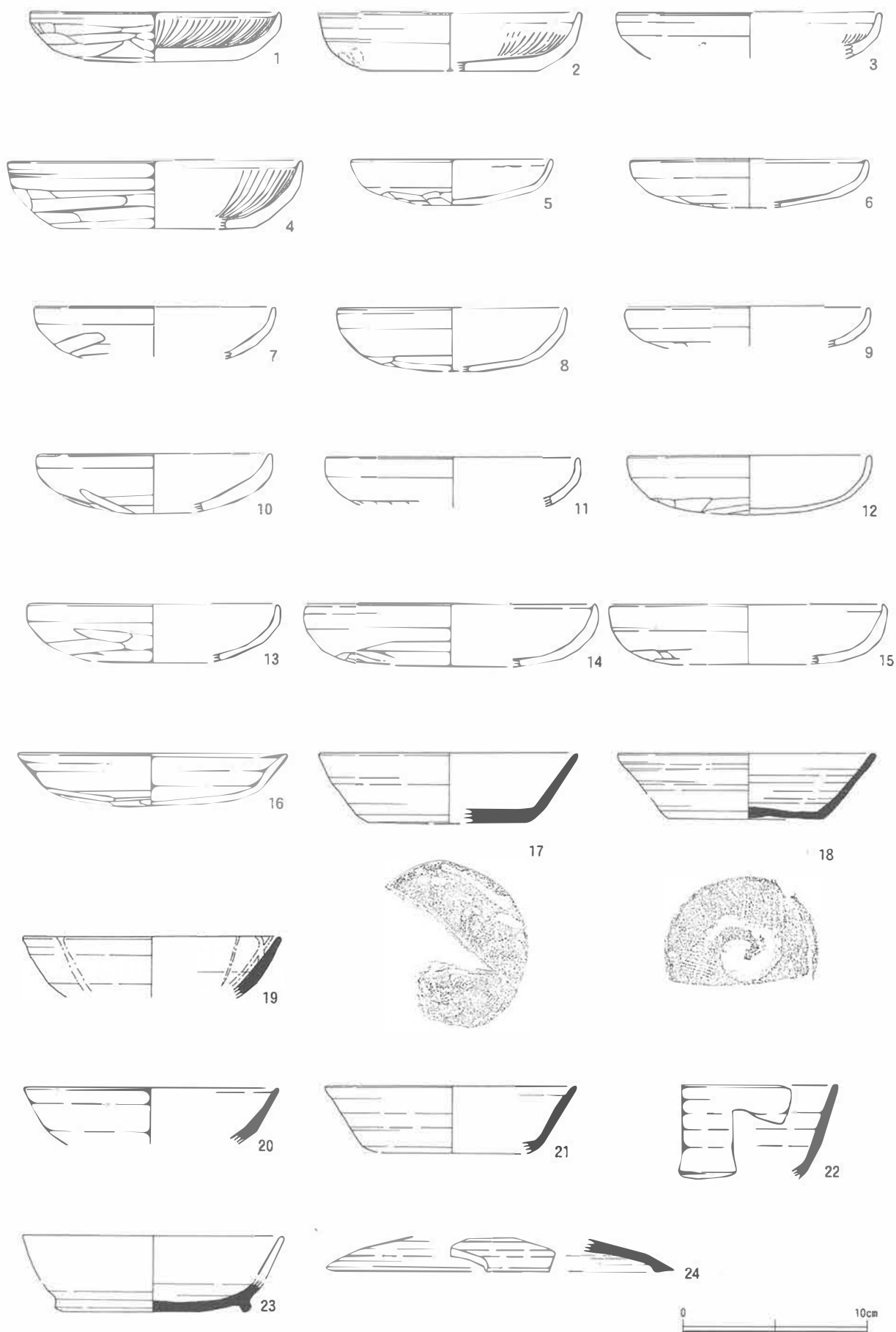
出土遺物で特筆されるのは、円面硯(No.27)と権(No.37)である。このほかに土師器の坏・皿・鉢・甕・台付甕、須恵器の坏・高台付坏・蓋・埴・盤・長頸瓶、土錘などが出土した。時期は8世紀中葉と考えられる。



#### 5号住居跡土層説明

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| 1 褐色土   | ローム粒を少量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。                |
| 2 黒褐色土  | ロームブロック・炭化物粒を微量含む。                    |
| 3 黄茶褐色土 | ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量、<br>ロームブロックを微量含む。 |
| 4 暗褐色土  | ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。                |
| 5 明褐色土  | ローム粒を多量、ロームブロックを少量含む。                 |
| 6 暗褐色土  | ローム粒・ロームブロックを少量、焼土粒・<br>炭化物粒を微量含む。    |

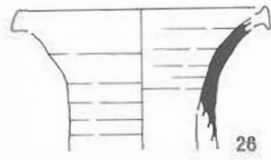
第23図 5号住居跡実測図



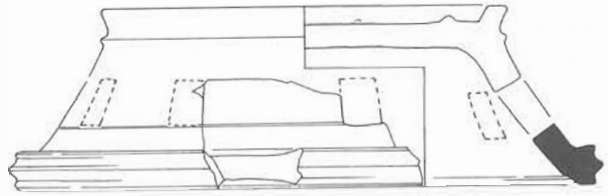
第24图 5号住居跡出土遺物実測図(1)



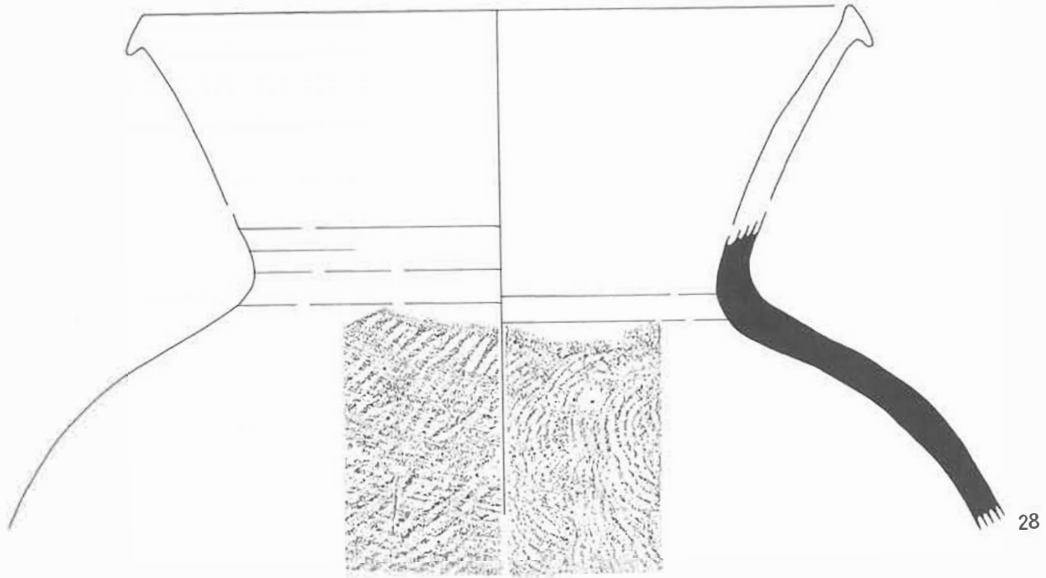
25



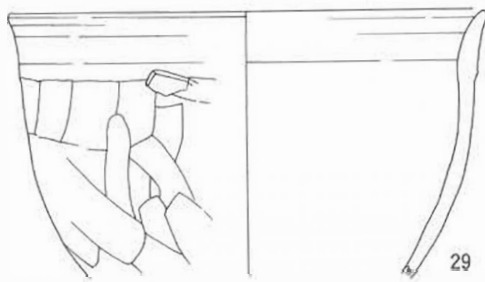
26



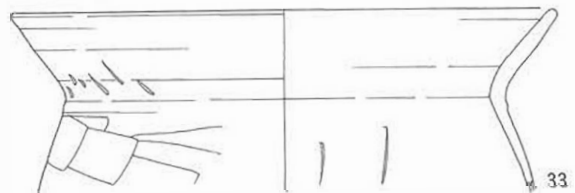
27



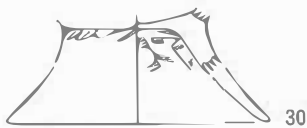
28



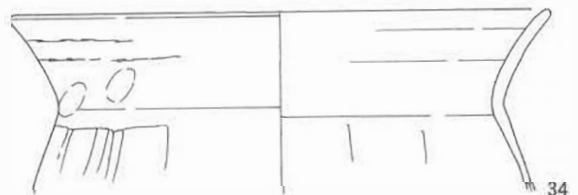
29



33



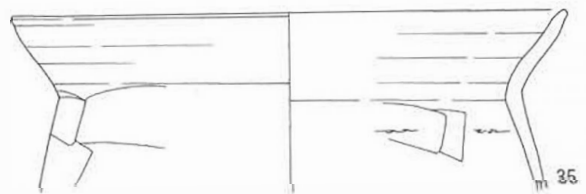
30



34



31



35



32

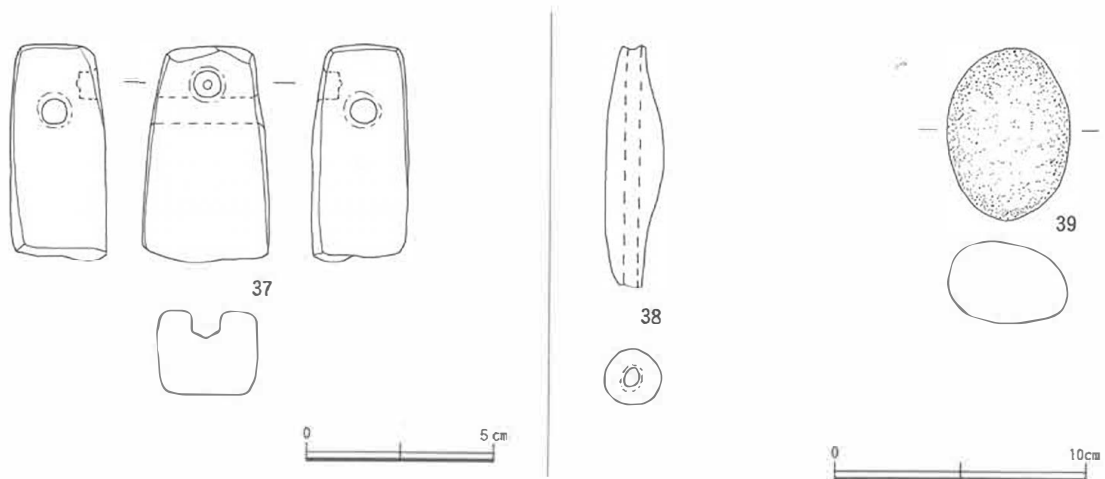


36



第25图 5号住居跡出土遺物実測図(2)





第26図 5号住居跡出土遺物実測図(3)

5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	胎土	残存率	備考
1	土師・坏	13.5	2.7	9.7	橙褐色	良好	石英、角閃石、砂粒	75%	図示、内面放射状暗文
2	土師・坏	(14.0)	3.1	(9.0)	橙褐色	普通	石英、角閃石、チャート、砂粒	図示10%	覆土、内面放射状暗文
3	土師・坏	(14.1)	《2.5》	-	灰橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母	図示10%	覆土、内面放射状暗文
4	土師・坏	(15.8)	3.7	(10.7)	赤褐色	良好	石英、角閃石、雲母、微砂粒	図示15%	覆土、内面放射状暗文
5	土師・坏	(10.8)	2.5	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、雲母	40%	覆土
6	土師・坏	(12.7)	(2.6)	-	にぶい黄赤色	普通	石英、角閃石、雲母	図示20%	覆土
7	土師・坏	(12.8)	《2.9》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母(精良)	図示10%	覆土
8	土師・坏	(12.3)	(3.4)	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	35%	覆土
9	土師・坏	(13.0)	《2.2》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示15%	覆土
10	土師・坏	(12.5)	(3.3)	-	灰褐色	やや悪	石英、角閃石、微砂粒	図示25%	覆土
11	土師・坏	(13.5)	《2.6》	-	橙褐色	普通	石英、長石、角閃石、微砂粒	図示20%	覆土
12	土師・坏	(12.9)	3.2	-	にぶい橙褐色	普通	石英、角閃石、雲母、赤色粒	35%	覆土
13	土師・坏	(13.5)	(3.2)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、雲母	図示20%	覆土
14	土師・坏	(15.5)	(3.4)	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、バミス、微砂粒	図示20%	覆土
15	土師・坏	(14.7)	(3.2)	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示15%	覆土
16	土師・皿	14.4	2.9	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	100%	図示
17	須恵・坏	(13.9)	3.8	(8.5)	にぶい灰色	普通	石英、長石、針状物	40%	覆土、底部周辺回転跡、南比企、1号住居跡と接合
18	須恵・坏	(13.8)	3.6	8.3	淡灰色	普通	石英、雲母、長石	60%	覆土、底部回転跡切り、未野?
19	須恵・坏	(13.8)	《3.3》	-	灰色	良好	石英、長石、針状物	図示20%	覆土、南比企
20	須恵・坏	(13.7)	《3.1》	-	明灰色	良好、堅緻	石英、長石、針状物	図示7%	覆土、南比企
21	須恵・坏	(13.5)	《3.6》	-	灰黄褐色	不良	石英、砂粒	図示10%	覆土、未野
22	須恵・碗	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	5%	覆土、南比企
23	須恵・高台付坏	-	《1.8》	(10.0)	明灰色	普通	石英、長石、微砂粒	図示30%	覆土、未野
24	須恵・蓋	(18.6)	《1.8》	-	明灰色	やや悪	石英、長石、黒色粒、微砂粒	破片	覆土、未野
25	須恵・盤	-	-	-	明灰色	普通	石英、長石、黒色粒	破片	覆土、未野
26	須恵・長頸瓶	-	-	-	明灰色	良好	長石、黒色粒	破片	覆土、群馬産
27	須恵・円面硯	-	《4.2》	(22.8)	明灰色	普通	石英、長石、片岩、黒色粒	図示10%	覆土、未野、1号住居跡と接合
28	須恵・壺	-	-	-	灰色	良好	石英、長石、黒色粒	図示25%	図示、外面平行叩き、内面背海波叩き、未野
29	土師・鉢	(18.8)	《10.7》	-	橙褐色	普通	石英、角閃石、バミス、黒色粒、微砂粒	図示15%	覆土
30	土師・台付壺	-	-	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、チャート、砂粒、バミス	図示90%	覆土
31	土師・壺	-	《2.6》	(6.7)	にぶい黄褐色	普通	石英、雲母、砂粒	図示50%	覆土
32	土師・壺	-	《3.0》	(7.8)	灰黄赤色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示30%	覆土
33	土師・壺	(21.3)	《7.4》	-	橙褐色	普通	石英、チャート、角閃石、雲母、バミス、砂粒	図示23%	床下土壌
34	土師・壺	(21.0)	《7.2》	-	にぶい橙褐色	普通	石英、角閃石、砂粒	図示15%	覆土
35	土師・壺	(21.8)	《7.2》	-	暗灰黄赤色	普通	石英、角閃石、長石、砂粒	図示10%	覆土
36	土師・壺	-	《4.1》	6.2	灰褐色	普通	石英、角閃石、バミス、砂粒	図示70%	覆土
37	石製品	長さ5.7cm	幅3.3cm	厚さ2.5cm	重さ67.0g	石質凝灰岩			図示、2ヶ所に穿孔、1つは未貫通、「榫」か
38	土鍾	長さ6.4cm	幅1.5cm	孔径0.4cm	重さ10.2g	普通	微砂粒	100%	覆土
39	磨石	長さ6.7cm	幅4.7cm	厚さ3.1cm	重さ138.2g	石質安山岩		100%	覆土

## IV まとめ

今回検出された遺構は、竪穴住居跡6軒である。遺構の重複関係から1 a号住居跡→1 b号住居跡、4号住居跡→3号住居跡→2号住居跡→1 b号住居跡という時間的推移が確認された。4号住居跡と5号住居跡については、調査区域外で重複するため、新旧関係は遺構上からは判別できなかった。

これらの結果と出土した土器形式から、竪穴住居跡を古い順に4号住居跡を7世紀末葉、3号住居跡を8世紀初頭、1 a号住居跡を8世紀初頭～前葉、5号住居跡を8世紀前葉～中葉、2号住居跡を8世紀中葉、1 b号住居跡を8世紀後半と想定した。ただし、土器の小破片が数点のみの出土という3号住居跡のようなケースもあり、再考の必要があると考えられる。

今回出土した遺物群のなかでも、榛沢郡衙との関連を想定させるものがあるので、以下に記す。

円面硯 8世紀前葉～中葉と考えられる5号住居跡から出土した。小破片ではあるが、脚部に方形の透かしを施していることが確認できる。胎土から同郡内の末野産と考えられる。熊野遺跡では、24点目での検出となる。

帯金具 銅製の鉞尾で、2号住居跡から出土した。熊野遺跡（内出遺跡を含む）では、17点目の出土品である。これらを形式に分類すると、鉸具1点、巡方6点、丸柄3点、鉞尾7点となる。今回の出土品は表具のみであったが、表裏一体となった金具も2組発見されている。

権状製品 凝灰岩製の長さ5.7cm、幅3.3cm、厚さ2.5cm、重さ67.0gを測る。2箇所穿孔されているが、1箇所は未貫通である。その形状から重さを量るための「権」であると推測した。ただし、当時の重量の単位である「銖」「両」「斤」といったものには当てはまらないので、確証は得られない。

いずれにせよ、これらの遺物は、通常の遺跡からではなく官衙関連遺跡から検出されるものであり、すでに指摘されているように本遺跡と榛沢郡家との関わり

をあらためて示すものと言える。

また、1 b号住居跡から墨書土器が検出された。土師器坏の底部に一文字が墨書されており、「本」の崩し字と考えてみた。本については諸説あるようであるが、高島英之氏は「奉」の省略形である可能性を指摘されている（高島 ）。「奉」は、神仏に“タテマツル”行為を示す文字である。熊野遺跡は、これまで陶製仏殿や柄香炉状製品、「道乙朋道具伏状」の刻字紡錘車・「神主内」墨書土器などが出土しており（第27図参照）、様々な祭祀行為が行われていたことが指摘されている。本遺物は、このことを傍証する遺物が追加されたと言えよう。

次に、本調査区周辺に目を向けると、北方の3地点で道路状遺構が検出されている。両端に側溝を持ち、一部で波板状圧痕も確認され、幅6～7mを測る。73次調査区で竪穴住居跡と切り合い関係を有し、8世紀前半には廃絶していた可能性が高い。この道路遺構を北に延長すると榛沢郡正倉跡が検出された中宿遺跡に至ると考えられる。一方、南に延長すると、本調査地点の脇を走行すると想定される。

そこで改めて今回の遺構を見てみると、1 a号住居跡を除く5軒の竪穴住居跡が、この道路状遺構に平行ないし直行していることがわかる。当然ながら、この道路状遺構の方位に規制を受けたことが判る。とすれば、1 b号住居跡の存続した8世紀後半までは、少なくとも道路としての機能を有していたか、あるいはそれに付随する区画が存続していたこととなろう。

残念ながら、他の地点からは道路状遺構の延長部が確認されておらず、今後の調査例の増加が待たれるところである。

### 引用・参考文献

- ・高島英之「古代出土文字資料の研究」2000
- ・富田和夫他「熊野遺跡A・C・D区」2002  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・鳥羽政之・武野谷俊夫「熊野遺跡Ⅰ」2001  
岡部町遺跡調査会
- ・鳥羽政之他「熊野遺跡Ⅲ」2004  
岡部町教育委員会





第28図 熊野遺跡163次調査周辺遺構図(2)

# 写 真 图 版

# 図版 1



発掘調査前



表土掘削状況



発掘調査風景



遺構確認状況



1 a・1 b号住居跡完掘状況



1 a・1 b号住居跡遺物出土遺物



1 a号住居跡カマド遺物出土状況



1 b号住居跡カマド完掘状況

## 図版 2



2号住居跡完掘状況



2号住居跡遺物出土状況



2号住居跡カマド遺物出土状況



3・4号住居跡完掘状況



5号住居跡遺物出土状況



5号住居跡榿出土状況

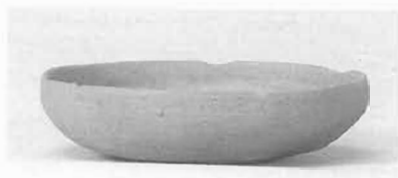


完掘状況 1 (西方より撮影)



完掘状況 2 (東方より撮影)





1 a 号住居跡No. 1



1 a 号住居跡No. 2



1 a 号住居跡No. 3



1 a 号住居跡No.10



1 a 号住居跡No.11



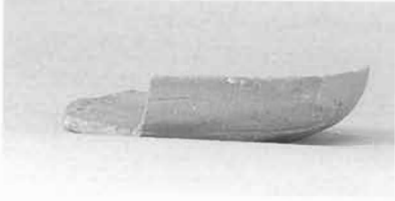
1 a 号住居跡No.12



1 b 号住居跡No. 3



# 图版 4



1 b 号住居跡No. 9



1 b 号住居跡No.17



1 b 号住居跡No.18



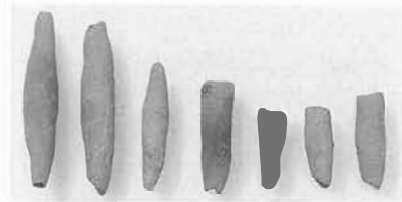
1 b 号住居跡No.34



1 b 号住居跡No.35



1 b 号住居跡No.36



1 b 号住居跡No.42 ~ 48



1 b 号住居跡No.49 · 50

图版 5



2号住居跡No.10



2号住居跡No.13



2号住居跡No.14



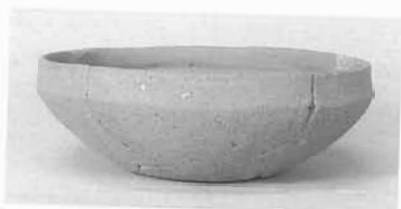
2号住居跡No.15



2号住居跡No.16



2号住居跡No.17



2号住居跡No.19



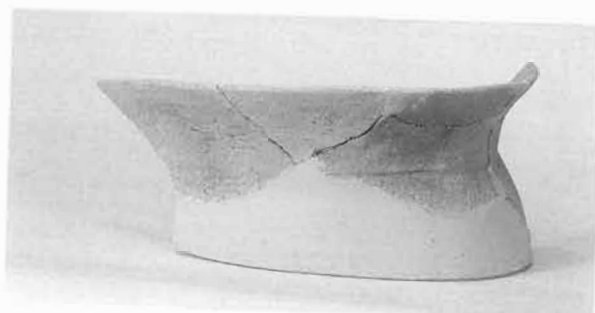
2号住居跡No.32



2号住居跡No.24

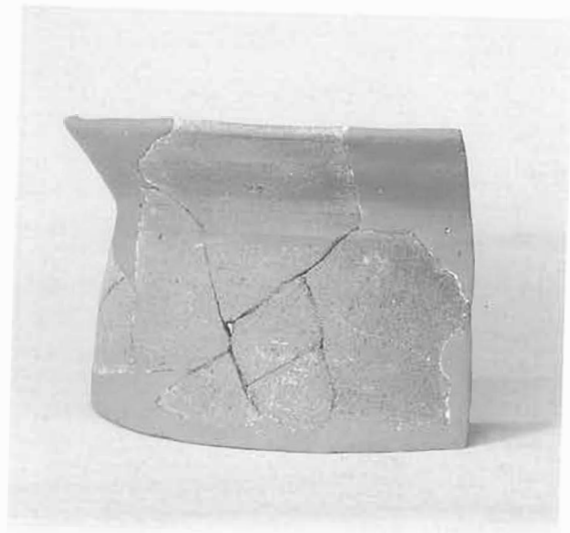


2号住居跡No.36



2号住居跡No.37

図版 6



2号住居跡No.38



2号住居跡No.39



2号住居跡No.42



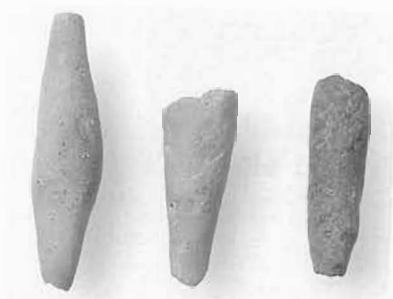
2号住居跡No.43



2号住居跡No.44



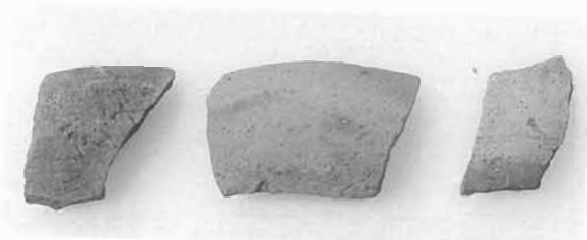
2号住居跡No.45



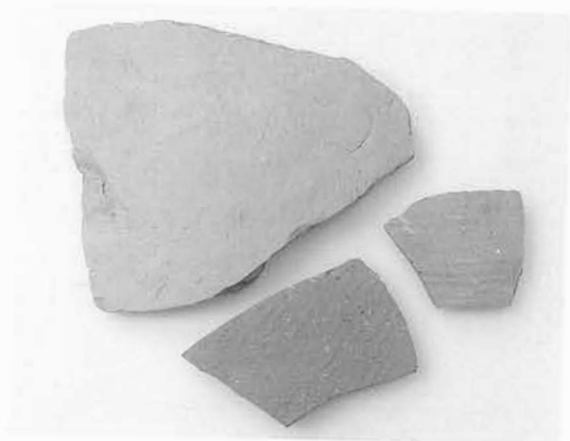
2号住居跡No.46 ~ 48



4号住居跡No. 1 ~ 8



3号住居跡No. 1 ~ 3



4号住居跡No. 9 ~ 11



4号住居跡No.12 ~ 15



5号住居跡No. 1



5号住居跡No. 8



5号住居跡No.12



5号住居跡No.14



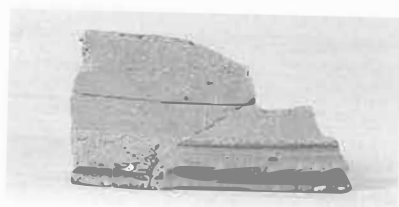
5号住居跡No.16



5号住居跡No.17



5号住居跡No.18



5号住居跡No.27



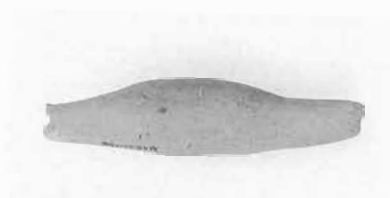
5号住居跡No.28



5号住居跡No.33 ~ 35



5号住居跡No.37



5号住居跡No.48

# 報告書抄録

ふりがな	ふかやしないいせき							
書名	深谷市内遺跡XVII							
副書名								
シリーズ	深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	第116集							
編著者名	宮本直樹・竹野谷俊夫							
編集機関	深谷市教育委員会							
所在地	〒366-0823 深谷市本住町17番地3 TEL 048 (572) 9581							
発行日	平成22年3月26日							
しよしゅういせき 所収遺跡	しよざいち 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くまのいせき 熊野遺跡 (163次調査)	さいたまけんふかやしおか 埼玉県深谷市岡 あざなかどおり 字中通279-1	市町村	遺跡	36°12'31"	139°14'37"	平成19年5月1日から 平成19年5月29日まで	299m <sup>2</sup>	個人住宅
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落跡 官衙後 居館跡	奈良～ 平安時代	竪穴住居跡		土師器 須恵器 鉄製品 石製品 土製品		帯金具・円面硯・権の出土 が特筆される。	

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第116集

深谷市内遺跡XVII（熊野163次）

2010年3月26日

編集発行 埼玉県深谷市教育委員会  
埼玉県深谷市本住町17番地3

---

---